

「共に生きる子ども育成プロジェクト」指導資料

共に生きる

～豊かな心、

社会性を育むために～

平成20年2月

岡山県教育庁指導課

はじめに

近年の我が国の情勢を見ますと、核家族化、都市化、情報化等の進展に伴って社会が大きく変化する中で、子どもたちの生活習慣の乱れや非行、あるいは、いじめや不登校などが社会的な問題になっています。これらの原因として、正義感や倫理観、自立心や自己抑制力等が十分養われていないことや、自分に自信なく、人間関係をつくる力が十分でない子どもが増えていることなどが指摘されています。

また、岡山県が実施した学習到達状況調査では、表現力や思考力に課題が見られました。さらに、昨年の10月に結果が公表された全国学力・学習状況調査でも、同様の傾向がありました。とりわけ表現力は、人間関係を築く基盤であり、各教科だけで育成できるものではありません。学級活動や道徳の時間等での話し合い、あるいは、幼稚園での遊びなどでの言葉による伝え合いの経験を積み重ねることを通して豊かな表現力を育成することは、安心して自分の思いや考えを述べることができる集団づくりにつながります。

岡山県教育委員会では、

- 自分自身のよさや個性を見だし、他者といきいきと生活する子ども
- 学びや生活の目標を立て、その実現に向けて粘り強く取り組む子ども
- 他者を思いやったり、他者に感謝したり、協力したりする子ども

の育成を目指し、「共に生きる子ども育成プロジェクト」事業を立ち上げました。

このプロジェクトの一環として、この度、幼稚園における道徳性や協同性の芽生えを豊かに育てていく取組や、小・中学校における話し合い活動や道徳の時間の基本的な進め方などを示した指導資料を作成しました。各校園におかれましては、話し合う場の経験を通して子どもたちにより豊かな社会性や高い道徳性を身に付けさせるために、本資料を参考にいただければと思います。

最後に、作成に当たって御尽力いただきました「共に生きる子ども育成プロジェクト」指導資料作成委員各位に対し、心よりお礼申し上げます。

平成20年2月

岡山県教育庁指導課長

竹 井 千 庫

目 次

I 幼稚園編	
1 「共に生きる子ども」を育てるために	3
2 「共に生きる子ども」の姿と配慮事項	4
3 「共に生きる子ども」が育っていく場	6
4 家庭と共に（家庭との連携）	7
5 実践事例	8
II 小学校編	
1 学級活動（話し合い活動）	
（1）話し合い活動の意義	29
（2）話し合い活動の過程及び指導上の留意点	30
（3）資料	38
2 道徳	
（1）道徳の授業を充実させるために	45
（2）基本的な展開例	49
III 中学校編	
1 学級活動（話し合い）	
（1）話し合いの意義	61
（2）話し合いのポイント	61
（3）話し合いの取組について	62
（4）話し合いを充実させるために	66
（5）資料	67
2 道徳	
（1）魅力ある道徳の時間にするために	72
（2）道徳教育の基盤づくり	75
（3）具体的な展開例	76
《「共に生きる子ども育成プロジェクト」指導資料作成委員名簿》	83

○活用にあたって

この指導資料は、学校園で行われる活動や保育・授業の改善・充実のために作成しました。さらに、幼稚園、小・中学校の活動や指導例を1冊にまとめることにより、各校種の理解と連携につながることをねらっています。

幼稚園編

自立、思いやり、他者とのかかわり等の観点から、発達段階に応じた配慮や育っていく場を示し、実践例を基にまとめています。

小・中学校編

話し合い活動と道徳の授業で、児童生徒がより意見や考えを出しやすくなるような授業の進め方について、授業の展開例等を示しながらまとめています。また、資料については拡大して使用できるものを掲載しています。

I 幼稚園編

1 「共に生きる子ども」を育てるために

幼児期は、知的にも情緒的にも、そして人間関係の面でも大きく成長する時期です。この時期、幼児は家庭を離れて生活の場を広げ、社会への第一歩を踏み出していきます。こうした時期に、幼児の生活を豊かにし、その人間関係を深めていくためにも、道徳性、協同性の芽生えを豊かに育てていくことが重要です。

その際、下図の3つのポイントの他に、「自己肯定感」「コミュニケーション能力」「よいこと悪いことを判断する力」「きまりやルールの大切さ」「幼児が自己発揮できる集団づくり」などについても配慮することが大切です。

こんな子どもに・・・

- 互いのよいところを認め合い、自信を持って生活する子ども
- 自分の思いを伝えるとともに、友だちの気持ちを大切に受け止めようとする子ども
- 友だちと生活する楽しさを感じ、目的に向けて力を合わせる子ども



遊びを通しての
総合的な指導



3つのポイント

- 自分で考え、行動する力
- 思いやりの心
- 他者とかかわる力

2 「共に生きる子ども」姿と配慮事項

前期



初めての集団生活の中で
様々な環境と出会う時期

自分で考え、行動する力

自分から興味や関心をもって環境にかかわり、活動を生み出す。

〈配慮事項〉

幼児の思いを肯定的に受け止め、温かい雰囲気づくりに努めながら、幼児が自分の思いを安心して表現したり、周りの環境に働きかけたりできるようにする。

思いやりの心

感情や思いをありのままに出し、相手の存在を感じる。

〈配慮事項〉

体験から生まれてくるその幼児なりの表現を受け止めたり、心の動きに応じたかわりに努めたりしながら、自分をありのままに出せるようにする。

また、周りの人に、自分の思いが言葉や態度で伝わることの心地よさを感じていけるように仲介する。

他者とかわる力

同じ場で喜びや楽しさなどの感情を共有する。

〈配慮事項〉

友だちと一緒に生活する楽しさを感じ取っていけるように、幼児同士の交流が生まれてくる環境を構成したり、イメージを共有しやすい場づくりや雰囲気づくりをしたりする。

また、友だちとかわる中で起きる幼児同士の様々な感情を十分受け止めるとともに、相手の表情や様子に気付かせ、相手の思いに触れていけるようにする。

中期

遊びが充実し、友だちの中で、自己を発揮する時期



後期

人間関係が深まり、学び合いが可能となる時期

充実感をもって活動を楽しむ中で、課題をもち、自分で乗り越える。

〈配慮事項〉

一人一人の幼児の楽しみやこだわりをとらえ、幼児の興味や関心に応じた環境を整えたり、時間や場を保障したりしていくとともに、幼児が自分のしたい遊びをやり遂げたり、自分の課題を乗り越えたりできるように援助し、満足感が味わえるようにする。

自分の存在感や他者からの評価を感じ取り、自信を持って行動する。

〈配慮事項〉

一人一人の幼児が、友だちと過ごす楽しさを十分感じる中で、自分が認められたり、注意されたりする経験を通して、自分に向き合いながら自信を持って、友だちとの生活の中で自己を発揮できるようにする。
また、その中で友だちのよさを受け止め、友だちとかがわり合っって学ぶ楽しさを味わえるようにする。

相手の気持ちや考えに気付く。

〈配慮事項〉

友だちとのかかわりの中で、それぞれの幼児の主張や気持ちを十分受け止めながら、互いの思いが伝わるようにしたり、納得して気持ちを立て直したりできるようにする。

また、相手の行動の意味や、自分の行為が相手にどのような影響をもたらすのか気付くように働きかける。

まわりの人と共感し合い、思いを分かち合う。

〈配慮事項〉

仲間として互いの言動や気持ちを認め合えるような、幼児同士のかかわりを育てていくように努め、友だちと共感し合ったり、思いを分かち合ったりしながら、自分たちの生活をつくり出していく楽しさを実感できるようにする。

自分の思いやこだわりを伝え、相手を認めたり折り合ったりしていく。

〈配慮事項〉

たくさんの友だちと活動に取り組みようとする意欲や、自分の思いやこだわりを理解してもらおうとする気持ちをとらえ、積極的に支える。

そして、幼児一人一人の思いが友だちの中で実現できるように援助しながら、一人では味わえない喜びを感じられるようにする。

目的を共有し、協同して活動を進め、満足感や達成感を味わう。

〈配慮事項〉

幼児同士の学び合いが生み出されるような遊びの工夫や、話し合いを促す援助を心かけ、共通の目的に向かって協力したり教え合ったりしながら、満足感や達成感を友だちと共有し合うことができるようにする。

3 「共に生きる子ども」が育っていく場

幼児期における「共に生きる力」の基礎は、園生活のあらゆる場で、体験を通して培われます。その時々にかかるいろいろな出来事が、幼児にとっては教材や学びの場となり、自発性や道徳性、協同性を培っていく機会となります。

教師は、その場の状況をとらえ、幼児の言動がどのような意味をもつのかを理解するとともに、どのような力が育っていくのかを見通し、状況に応じて多様なかわり方をする必要があります。

○ 友だちとのトラブルや葛藤を通して

<育っていく力>

幼稚園での集団生活は、必ずしも幼児にとって心地よいことばかりではなく、様々なトラブルが発生します。その中で、葛藤やつまづきを経験し克服していくことで、他者への思いやりの気持ちが育ったり、よいことと悪いことの判断ができるようになっていったりしていきます。

<状況に応じたかわり方>

教師の言動は、幼児に大きな影響を及ぼします。命にかかわることや人が嫌がることなどは、毅然とした態度でその行為を戒めたり教師自身の思いや考えを知らせたりすることも必要です。

また、結果を焦るのではなく、悔しさやこだわり、戸惑いなどの幼児の心の動きを受け止め、幼児自身が心にしみて理解できるように援助していくことも大切です。

○ 学級全体の活動や話し合いの場で

<育っていく力>

学級のみならずと一緒に集団遊びをしたり様々な活動を共有したりすることで仲間意識や目的意識が生まれ、協力し合うことの楽しさや達成感などを感じるようになります。

<状況に応じたかわり方>

教師は一人一人の幼児がその学級に所属していることの心地よさや一員としての自覚がもてるよう、援助していくことが大切です。

また、遊びや生活の中で問題が生じた時、学級みんなのこととして話し合う場を設けたり、学級全体で共通の目的に向けてアイデアを出し合うことで遊びや生活をより豊かにしていくことも大切です。

○ ルールやきまりに触れる中で

<育っていく力>

集団生活を営んでいく中で、友だちと楽しく安全に過ごすためには、ルールや決まりを守ることが大切であることを学んでいきます。自分たちでルールを作ったり、遊びをおもしろくするためにルールを作り変えたりしていくこともあります。

このような体験を積み重ねることによって規範意識が育っていきます。

<状況に応じたかわり方>

幼児期には、幼児自身がルールやきまりの必要性を実感し、自分から守ろうとすることができるような状況をつくっていくことが大切です。

○ 協同的な活動の中で

<育っていく力>

幼児期前期には、友だちと遊びや生活を共にする中で、楽しさや我慢などの感情を共有し、協同性の芽を育てていきます。そして、幼児期後期、特に5歳児では、共通の目的に向けて共に試行錯誤したりアイデアを出し合ったりしながら、自分たちで遊びや作業を進めていくなどの自発性や協同性が育っていきます。

<状況に応じたかかわり方>

このような時期には、幼児同士が互いに刺激し合い学び合えるように、友だちと協力しながら進めていく活動や学級全体で一つの課題をもって取り組む活動を取り入れていくことも大切です。その中で、幼児が満足感や充実感を味わい、友だちと一緒に生活していくことの楽しさが実感できるよう配慮する必要があります。

そして、自分の役割を責任をもって果たそうとしたり、人間関係の調整をしたりするなど、協同性の質を高め、小学校教育への接続を考慮することが大切です。

○ 異年齢の人々とかかわる中で

<育っていく力>

幼稚園では、3歳児から5歳児がかかわりをもつ場が多く見られ、こうした異年齢児とのかかわりの中で多くのことを学んでいます。

年長者が年少者をリードしモデルとして優しく振る舞ったり、逆に年少者は年長者の頼もしさや優しさに触れて憧れの気持ちをもつなど、協同性が育っていきます。

<状況に応じたかかわり方>

幼稚園では異年齢の子どもたちとかかわる機会を保育の中に積極的に取り入れていく必要があります。また、小学生や中学生とのかかわりも大切です。

○ 身近な動植物とのかかわりの中で

<育っていく力>

幼児は、生き物や植物を遊びに取り入れたり、育てたりする過程で、いたわりの気持ちをもったり、命あるものの大切さを感じ取ったりしていきます。また、生命の誕生や死などに心を揺り動かされる体験を通して、豊かな心や道徳性が育っていきます。このような体験が、相手を理解しようとしたり思いやったりする気持ちにもつながっていきます。

<状況に応じたかかわり方>

幼児期には、園内外の身近な自然や生き物などと触れ合う体験が十分得られるよう環境を整えていくことが大切です。

4 家庭と共に（家庭との連携）

幼児の生活は、家庭、地域社会、幼稚園と連続的に営まれており、特に家庭は、限りない愛情やしつけを通して人格形成の基盤づくりをする場であり、基本的信頼感や道徳性、協同性の芽生えの基礎が形成されます。

幼稚園は、家庭での成長や発達を受けて、集団生活の中でより充実させていくとともに、幼稚園で培われたものが家庭で生かされるよう支援していく必要があります。

5 実践事例

(1) 初めての集団生活の中で、友だちの存在を知る

～優しくなったね～

3歳児

一人一人の幼児が、自分の思いをありのままに出すことで、周りにいる友だちとの間でいざこざが起こることがしばしばあります。集団生活を始めたばかりの3歳児にとっては、予想せぬ友だちの反応に驚いたり、思いが通らないために悲しみや悔しさを味わったりする初めての体験です。しかし、友だちの存在を意識し、様々な感情体験をすることは、友だちとのかかわり方を学ぶ貴重な経験です。傍らにいる教師との信頼関係を基に、一人一人の幼児が安心して周りの環境や友だちの中でいろいろな体験ができ、自分の思いを出しながら友だちの存在を意識したり、思いに触れたりできるようにすることが大切です。

<教師の援助のポイント>

- 幼児の感情や思いをありのままに出せるよう配慮し、その思いをしっかり受け止める。
- 友だちとの間で起こるいざこざについては、解決を急がず、その中で味わう感情体験を大切にしながら、一人一人の幼児の思いに寄り添い支えていく。
- 機会をとらえ、相手の気持ちに触れることができるようにする。

・・・援助のポイント

だめ！ 一緒に遊ばない

(5月9日)

入園して3週間。A児は、母親と離れにくく、自分の思いをありのままに出すが、母親以外の人とのかかわりを受け入れようとしないで、いろいろな場所で友だちといざこざを起こしていた。

B児が「A君が寄せてくれん」と教師に言ってきた。A児が楽しそうに遊んでいるブロックで自分も遊びたいと思ったらしい。

T 「B君、A君に『寄せて』って言うてみよう。」と声をかけ、B児と一緒にA児の所へ行った。

B児 「寄せて」と何度もA児に言う。

A児 「だめ」を繰り返し、少しも受け入れようとしない。

2人のただならぬ様子に、傍らにいた幼児が「みんなが使うぶんよ」とA児が貸そうとしない態度を批判的にとらえてかかかわると、A児はその幼児に向かってブロックを投げた。

一向に態度を変えないA児に対して我慢できないB児は「ぼく、やりたい」と一つブロックを取った。その途端、A児はB児をたたきブロックを取り返そうとしたが、B児が離そうとしないと足で蹴り始めた。

教師は、危険だったので、「A君、ブロックで遊ぶの好きだものね」と声をかけながらA児とB児の間に入るようにした。A児は蹴るのを止めることはできたが、知らん顔をしていた。

T 「B君が『痛い』って言っているよ。ほら」とB児の痛くて辛そうな表情に気付くように働きかけた。

B児 「ここが痛い」と体を押しえ背を丸くしていた。

T 「痛かったね。大丈夫？」と声をかけながら、B児の痛いところをさすった。

自分の思いを表現できるB児なので、遊びたい思いを、直接A児に伝えられるように仲立ちをし、幼児同士のかかわりが生まれるようにする。

A児の気持ちを受け止め、気持ちが安定するようにする。

A児に蹴られて痛そうな表情に気付かせ、B児の思いに触れるようにする。

予想せぬ友だちの反応に戸惑っているB児の気持ちに寄り添い受け止める。

A児は、B児と教師の様子を見ていたが、黙ったまま知らん顔をしていた。教師は、今日の経験がA児の心にため込まれることを願いながら、あえて何も言わずに見守った。

今のA児には、言葉で教えるよりも友だちの存在を肌で感じる経験が大切であるという思いで見守る。

車を貸してあげたよ

(5月10日)

昨日、遊具の取り合いのけんかをしたA児とB児であるが、互いに気になる存在になっている。

B児 「先生、A君がぼくの車を取った」と言ってきた。

T 「どこに置いていたの？」 B児 「そこ」

T 「そうか、置いていて乗っていなかったんだね」

B児 「うん」

T 「A君はその車をB君が乗っていたのを知らなくて、誰も乗っていないから乗ったんじゃない?」

B児 「うーん。でも乗りたい」

B児は昨日、A児と取り合いのけんかをして辛い思いをしたので、自分で言えるか不安であったが、傍らで支えていこうと思った。

T 「A君に『乗りたい』って言うてみたら」と言うと、B児はすぐにA児のところに行って、

B児 「貸して、ぼく乗りたい」と言った。

A児が取ったというB児の主張を受け止めつつ、その場の状況を整理しながら伝える。

B児が自分の気持ちをありのままA児に伝えられるよう援助し、二人がそれぞれの思いを知る機会をつくる。

昨日は、B児が伝えた思いをA児が拒否したので、取り合いのけんかになったが、今日はA児がB児の思いを受け止められるだろうか。また、B児は思いを受け止めてもらえなかったときにどう行動するだろうかなど、二人のかかわりや、生まれる思いを見届けるとともに、二人の幼児にその中で感情体験をしっかり味わってほしいと思い見守った。

B児の思いを聞いて、友だちの思いを受け入れることができたA児の変化をしっかり把握する。

A児はB児の思いを聞くとちょっと考えていたが、すぐに車をさっとB児に渡すと、恥ずかしそうにテラスを一回りして部屋の中に戻ってきて、遊具の陰に隠れた。

B児の思いを知り自分なりに精一杯応えようと行動したA児の姿を見て、昨日の取り合いのけんかをして味わった感情体験が、今日のA児の行動に少なからず影響を及ぼしているのを感じた。

自分の思いを受け止めてもらえたB児のうれしい気持ちに共感する。

すると、A児の様子をじっと見ていたB児は「昨日まで怒りんぼじゃったのに、もう優しくなった」とうれしそうに言った。教師もうれしい気持ちを伝えたくて「そうだね、優しくなったね」と言いながらA児の方を見ると、A児がうれしそうにこちらを見ていた。

教師は、A児に「B君が『A君優しくなったね』と言っているよ」と声をかけると、A児はまた照れくさそうな表情を見せた。

教師も友だちも、A児の行動や気持ちを受け止めていることを伝え、友だちとのかかわりの中で心地よい経験として積み重ねるようになる。

幼稚園に入園するまでの生育歴により、幼児一人一人の実態は様々です。幼児は、自分の経験を手がかりに物事を受け止め、信頼や憧れを抱いたり、自分を取り巻く人々の言動・態度などを模倣し、自分の行動に取り入れたりします。幼児にとって、家庭での人間関係は様々な面で大きな影響があります。

家庭から離れて初めての幼稚園生活で、一人一人が安定感を得られるようになるためには、幼児の小さな変化や心の動きに沿った教師のかかわりが重要です。

また、他者とかかわる力の基盤として、教師がパイプ役になり豊かな体験を通して、同じ場にいる友だちの思いを共有する経験を重ねていくことが大切です。幼児の自立性は他者とかかわりながら、生き生きと育まれていきます。

<教師の援助のポイント>

- 幼児に対する一面的な見方にとらわれず、幼児のあるがままの姿、個々の発達段階、家庭での成育環境について詳細に見取り、幼児の心の奥底に寄り添う。
- 幼児と一緒に暮らしている「周囲の人との心のつながり」を感じられるように教師がパイプ役となる。

～A児について～

入園前、家庭ではほとんど室内で過ごしていたA児。入園当初は、あまりしゃべらず、周りの環境に対して興味を示すことが少ない。

・・・援助のポイント

(6月)

砂場で水を使って泥んこ遊びをしている数名の幼児。A児はスコップをもって近くで穴を掘っている。

水をくんできたB・C児が穴に水を流し、その中に裸足で入りグシャグシャと泥と水の感触を楽しんでいる。近くにいたA児の足に砂や水がかかるが、その砂や水をゆっくりはらい落とそうとする。

数日間、三人の観察していた。砂場にいることで心が安定しつつあるA児とB・C児とをつなぐきっかけを投げかけてよい時期ではないかと考え、教師が仲間に加わる言葉や感じたことを表現する。

教師はB・C児の反応が聞こえるように、A児を意識しながら話したり、A児に感触を投げかけたりする。

B・C児 「気持ちええで！なあAくん」

A児 「…（無言）気持ちええって？」

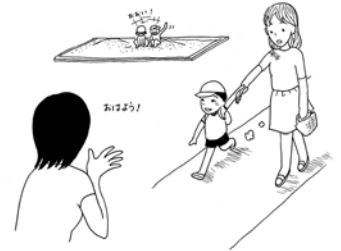
T 「BくんCくんはな、足がベチョベチョして気持ちいいんじゃて。Aくん」



周りの幼児が感じたことを、A児自身が、自分の体で感じることでつながるように、幼児間を具体的な言葉や教師自身の表情、雰囲気ですべて埋めていくように心がける。

A児 「ふ～ん…」自分の足をじっとながめて、砂をまさぐっている。

A児 「気持ちええ…気持ちええ…」(小さな声で言い続ける。)



(7月)

B・C児は登園すると「昨日の砂場での遊びを今日もしたい」とすぐに遊び始めた。

二人は、少し遅く登園してきたA児を見つけ、砂場から「Aくん、まっとするで！」と声をかける。

A児は、母親と歩きながら二人の方を見て、少し速く歩いて保育室へ向かう。

登園時のA児のいつもと違う微妙な変化を教師は感じる。今までのA児の様子を思い浮かべ、A児へ教師からの投げかけを行う。

持ち物の片付けを教師と一緒にいき、「砂場に行く？」という教師の問いかけに大きくうなずく。

教師とA児と一緒に砂場に行くと、C児が「おはよう！水入れようでえ」と近寄って言う。

A児はニコニコしながらB・C児を見ている。

しばらくじっと二人の様子を見ていたA児は、スコップで自分の足を砂の中に入れてたり、砂を足で掘ったりということを繰り返している。

また、B・C児が砂を自分の手や足にかけている楽しそうな様子を見たり、話している言葉をじっと顔を見て聞いたりしている。教師はA児の足に砂を少しかけてみる。

A児 「…！(ビックリした様子)」(少しニコッとする)

A児 「…気持ちええんじゃ！」

A児と教師は目が合い、同じようににっこりとうなずき合う。

今日のA児の心がまさに今動き始めていることを、教師はA児の変化から読み取り、A児の微妙な気持ちをていねいに支えていく。

今日のA児は、いつもと何かが違うと感じた。教師はA児の表情、仕草を見ながら、タイミングを見計らいA児に意図的に砂と出会わせてみる。

A児の心を共に感じ合えるような言葉ではなく、味わえない感覚をうけとくという援助で行う。



幼児自身が自分らしさを発揮するためには、ありのままの姿を受け入れられるような人間関係が大切です。そのためには、大切な一人の人間として認められ、自分に自信を持って生活できるような環境が必要です。特に、教師は大きな人的環境であることを十分認識し、幼児のいろいろな言動を見逃さないように援助し、自分と相手の違いを知りながら互いに尊重し、育ち合っていけるような友だち関係を作っていくことが大切です。幼児同士が互いに影響を受け合いながら、自分の思いを出して、友だちの思いに寄り添う中で、具体的なかかわり方を一緒に考えていくことが大切です。

<教師の援助のポイント>

- 言葉にならないA児の気持ちを代弁していくことで、周りの幼児がA児の気持ちに気付いていけるようにする。
- 教師との信頼関係を基盤に、幼児の心の安定を図り、一人一人の心が満たされることで、友だちを受け入れ、思いやる気持ちがもてるようにする。

～A児と周りの幼児について～

障害のある幼児は、「Aちゃん！」と話しかけると、機嫌のよい時は笑って反応するようになってきた。周りの幼児は、入園時にA児の母親から説明を聞いていたので、A児の身体のことについては、多少理解している。A児にかかわっている教師の姿を見て、同じように頬や手に触れたり、話しかけたりしている。

……援助のポイント

Aちゃんごめんね

(4月)

入園して数日後の牛乳の時間、教師がいつものようにA児にスプーンで牛乳を飲ませていた。するとA児を見ながら

B児 「Aちゃんは、赤ちゃんじゃなあ。牛乳を飲ませてもらって！」

母親から説明はあったが、何となく自分たちと様子の違うA児の姿は、幼児にとってはそのように映ったのであろう。

T 「そうだね。確かにAちゃんはバギーに乗ったり、牛乳を先生に飲ませてもらったりしているから、みんなから見たら赤ちゃんに見えるかもしれないね。でも、Aちゃんは、みんなと同じ4歳なんだよ。Aちゃんも本当はみんなみたいに牛乳を手で持って飲みたいと思っているかもしれないよ。この間、Aちゃんのお母さんが教えて下さったように、お母さんのお腹から早く生まれたので、みんなのように自分で食べたり飲んだりできないんだよ。それは、病気ではなくて障害って言うんだよ。自分でしたいと思っても体が思うように動かないんだよ。それなのに赤ちゃんみたいって言ったらAちゃんは、どんな気持ちがするかな？」

と話していると、牛乳を飲む手が止まりみんな真剣な顔になっていた。すると、

C児 「悲しい気持ちがすると思う。」

幼児の表情を見ながら少しずつ話していく。分かりやすい言葉で伝え、A児の思いに気付かせていく。

B児を責めるのではなく、言葉にできないA児の思いを教師が毅然とした態度で知らせ、みんなとA児の気持ちを考えさせていけるようにする。

と言うとよりいっそう重苦しい雰囲気になり、

B児 「Aちゃんごめんね。」と涙をたくさんためていた。

T 「先生は、Bちゃんが悪いと思っていないよ。Bちゃんは、自分の思ったことを言ったんだ。」

何気なく使った言葉が、A児の心に傷つけたことB児をしっかりと認める。

Aちゃん、頑張れ！

(5月)

A児も園の生活に慣れてきた。他の幼児の声にも反応を示すようになり、視線が合うことも以前より多くなってきた。調子がよい時には、牛乳もスムーズに口に入るようになってきた。

T 「今日は、Aちゃん、とっても頑張っていて飲んでいるよ。見て！」と教師が言うと、

幼児 「ほんとだ！すごいね。」「Aちゃんを応援してあげよう！」と周りの幼児たちの励ます声が聞こえてきた。A児が飲み終わった時、自然に拍手になっていた。

T 「みんなが応援してくれたから、Aちゃんは、頑張れたんだね。ありがとうね。Aちゃんも喜んでいるよ。」

と言うと、周りの幼児達はお互いに顔を見合わせ、とてもうれしい表情をしていた。

A児の頑張っている姿を見て、今までのことを一生懸命している周りの幼児の姿を認めていく。

A児の気持ちを代弁し、応援してくれる皆に感謝の気持ちを伝えるようにする。

Aちゃんも一緒に遊ぼうや！

(6月)

イチゴミルクゲーム（鬼ごっこ）をしている時、A児をみんなの様子がよく見える所に連れて来ていた。年長組の幼児が声をかけてきた。

D児 「先生！Aちゃんも一緒に遊ぼうや！」

教師は、一瞬どう答えようかと迷っていたら、

D児 「イチゴの時は、先生がAちゃんのバギーを押して走ったらいいんだよ！そうしたらAちゃんも一緒に遊べるよ！」

D児の発想に教師は、はっとさせられた。

T 「Dちゃんの考えはすごいよ！」

と、さっそくD児のアイデアでA児も遊びに参加することになった。

A児も初めは、びっくりした様子だったが、回数を重ねるごとにうれしい表情になっていった。他児も、A児と一緒に遊ぶことができ、とても満足そうな笑顔が見られた。この遊びがきっかけになり、教師だけでなく幼児達もバギーを押して好きな遊びの場に行ってくれるようになった。

中でもB児は、A児の顔を見て話しかけたり、A児に絵本がよく見えるように工夫しながら読んだりするようになってきた。時々見せるA児の笑顔に「Aちゃんが今、笑ったなー。」とうれしそうな表情をしている。

A児と一緒に遊びたいという願いからでたD児の考えに共感し、安全面を考えた上でそのアイデアがみんなの遊びの中で生かされるよう働きかける。

安全面に配慮しながら、一緒に遊ぶことができたうれしさをみんなでも共有する。

A児の気持ちに気付き、かかわり方を自分なりに考えて行動しているB児をしっかりと認める。また、B児が側に来てくれることをA児が喜んでいることを伝えるようにする。



集団遊びをする中で、幼児は、友だちとかかわる楽しさ、一緒に動く心地よさ、友だちの動きに対応して考えたり動いたりする面白さなどを味わいます。しかし、ルールを守らない友だちとの間でトラブルになったり、ルールを守らないことが悪いと分かっているにもかかわらずそれを友だちに伝えることができなかつたりします。教師は、その場その場をとらえ、仲立ちとなつて互いの思いを伝えていくことで、幼児同士が意思疎通を図りながら、気持ちよく遊びが進められるようにし、仲間とつながる喜びを実感できるようにしていくことが大切です。

<教師の援助のポイント>

- トラブルを個人の問題としてとらえず、クラスのこととして大切に受け止め、みんなで考えていくことで、自分の思いが言えたり、友だちの思いに気付いたりできるようにしていく。
- 教師も遊びの楽しさを一緒に味わいながら、ルールを守る心地よさを幼児自身が実感できるようにしていく。

・・・援助のポイント

クラスみんなで「狼と子やぎ」の鬼ごっこをして遊んでいた。
B児 「タッチ!」と言ってA児にタッチした。
A児 B児にタッチされたが、「タッチされてない!」と言って逃がっている。
B児 再びA児に「タッチ!」と言って、タッチした。
A児 B児に向かって「タッチされんかったよ!」と、主張し、その場から動こうとしない。
B児 追いかけるのをやめてじっとしている。
周りの幼児は、A児が決まりを守っていないことに気が付くが何も言わない。
T 「Bくん、どうしたの? 一生懸命Aくんを追いかけていたよね。」
B児 「…Aくん、タッチしたのに『タッチされてない。』って言う。」と、教師に小さな声で辛そうに言う。
T 「そうだったのね。Bくん、よく言えたね。」
A児 「……………」
T 「先生も見ていたけど、Aくんは、タッチされないようによく逃がっていたね。でも、捕まったらどうするのかな?」
周りの幼児は、「タッチされたよな。」「いけんわ。」「お家に入らんとあ。」と、ひそひそと言っている。
A児は、友だちの言葉を聞いている時もじっとして、下を向いたままである。
T 「タッチされても狼のお家に入らなかつたらどうかな?」「Aくんずるい。」「楽しくない。」「いやじゃ。」「タッチされたら鬼だよ!」と、教師の投げかけに自分たちの思いを口々に言う。
T 「みんなは、そう思うんだね。」
自分の言動についてみんなから指摘され、口をとがらせて横を向いている。



B児の思いに共感するように話しかけ、思いが出せるようにする。

A児の頑張っている姿を認め、その後どうすればよかったのかを考えさせる。

A児の問題をみんなの問題としてとらえ、クラスみんなに投げかける。

周りの幼児の気持ちに気付かせるようにする。

T 「教えてくれてありがとう。Aくんもみんなの言ってくれたことを、きっと分かってくれるよ。」

『先生は、自分たちの言ったことを分かってくれた』という安心した表情で、再び楽しそうに鬼ごっこを始める。

A児は、様子を気にしながらも、鬼ごっこをしようとしな

T 「Aくん。したくなったら一緒にしよう。待っているよ。」

A児は、教師の投げかけにはうなずくが、じっとして、まだ加わろうとしない。

遊びに加わろうとしないA児を時々見ている幼児もいるが、鬼ごっこを楽しんでいる。

A児は、この日は、鬼ごっこに加わってこなかった。

A児の気持ちが落ち着くまで、そっと見守っておく。また、周りの幼児には、『おかしいことは、おかしい』と言える大切さを伝える。

いつでも入っていいんだよ、という安心感をもたせる。

(翌日)

幼児から「先生！狼さんの鬼ごっこをしたい！」「あっ、僕も入れて！」「するする！」と、声上がる。

T 「そうしようか。今日もみんなで遊ぼう！」と鬼ごっこの場を設定する。

A児は、一瞬友だちの方を見たが、遊具の方へ行ってしまった。離れたところではあるが、鬼ごっこを気にしている様子である。

周りの幼児は、A児の様子には気付いていない。

T 「他にも一緒に遊びたいお友だちはいないかな？」

辺りを見回し「おーいAくんもおいで。一緒にしよう！」とB児が元気に声をかけてA児を誘う。

A児 「うん・・・」と照れくさそうに返事をし、笑顔で遊びに入った。

周りの幼児も「しよう！しよう！」とA児が加わったことを喜んで

T 「Aくん！待っていたよ！」と友だちの誘いに応えて遊びに入ったA児を笑顔で迎える。

T 「よく、気が付いて誘ってあげたね。みんなが誘ってくれたから、Aくんもうれしかったと思うよ。」

A児は走りながら目を輝かせ、「わあ、ぎりぎりタッチされなかった！」と張りきった様子で歓声をあげながら楽しそうに逃げ回っている。みんな捕まったが最後に一人だけ残って逃げることになる。友だちに認められ、笑顔で一生懸命走っている。すでに捕まった幼児が狼の家の中から「Aくんすごいなあ！」「走るの速いなあ。」「Aくん頑張れ！」と逃げているA児に声援を送る。

A児は、みんなに認められて得意そうに走っているが、捕まってしまう。しかし、「あっ。タッチされた。」と言って、自分から狼の家に素直に入ることができる。

T 「Aくん。よく走ったね。捕まったのは残念だったけど、ちゃんと狼のお家に入ったね。今日、Aくんと一緒に遊べて先生は、うれしかったよ。」

周りの幼児は、明るい表情で教師の言葉を聞き、A児の様子を見ていた。

周りの幼児が、A児のことに気付くように言葉かけをする。



自分の気持ちを立て直して、遊びに入ってきたA児を、みんなで受け入れるようにする。

A児のことに気付き、言葉かけた周りの友だちをしっかりと認める。

約束を守って遊べるようになったことを認め、抱きしめる。

一緒に遊ぶ楽しさや、理解し合えたことの心地よさを感じている幼児達の姿を温かく見守る。

小動物を飼育して、生態を知ったり、不思議さや感動を味わったりする中で、科学的な物の見方や考え方の芽生えを培うことができます。しかし、生き物を飼育する中で、生命の誕生や死に直面することもあり、その時、一つ一つの小さな命にどう対応していくかによって、幼児の心の育ちは大きく変わります。死と遭遇したことにより、命の大切さに気づき、命あるものを責任をもって飼育する気持ちを育てていくことが大切です。

<教師の援助のポイント>

- すずむしの特性を知り、引き継がれていく命の偉大さや素晴らしさを感じさせていく。また、一緒に世話をする中で、優しい気持ちや思いやりの気持ちもてるようにする。
- 飼育する中で、死と誕生に直面することによって、幼児の心が激しく揺り動かされる時をとらえ、命の大切さに対する感性を育てていく。

……援助のポイント

(前年11月)

大事に飼っていたすずむしが次々に死んでしまった。

幼児 「すずむしさん、どうしたのかな？」

と友だち同士、心配そうに観察ケースをのぞいていた。教師は、すずむしを大切に世話をしてきた幼児の悲しい気持ちを受け止めると同時に、すずむしの本と一緒に見ることにした。

『秋の終わりに卵を産んだすずむしは、死んでしまいます。卵のまま冬を越して春には、赤ちゃんが誕生します。』と本に書いてあることを伝えると、

幼児 「お母さんが死んでしまってかわいそう。」

と、とても悲しい表情になった。幼児と共に、死んでしまったすずむしのお墓を作り「赤ちゃんが生まれたら大切に作るからね。安心してね。」と手を合わせた。

部屋に帰って観察ケースをよく見ると、白くて細長い卵が外側からいくつも見ることができた。

T 「小さいけど、これがすずむしの卵だよ。」と見せると、

幼児 「わー。ほんとじゃ。ちっちゃいけど、見える！見える！」

と、初めて見たすずむしの卵に歓声があがった。霧吹きで土を溼らせ、ラップをして、涼しくて暗い場所を幼児と考え、倉庫の中に置くことにした。

T 「すずむしの赤ちゃんは、みんながバラ組さんになった頃生まれるよ。それまで静かな所で休ませてあげようね。」

と話すと、友だちとすずむしの誕生を楽しみに待つ姿が見られた。

図鑑を幼児と一緒に見ることで、すずむしの生態を知らせていくようにする。

悲しい現実を受け止めながらも、次に生まれてくる命を大切にしようと思っている幼児の気持ちを、しっかり受け止めるようにする。

すずむしの赤ちゃんが生まれるのに一番よい環境になるよう、幼児と共に置く場所を考えていく。

(4月下旬)

幼児と一緒に倉庫から観察ケースを取り出し、ラップをはずした。

幼児 「まだ、生まれてないなあ。」「ここに、白い卵がまだあるもん！」

と、友だちと頭をつき合わせながら小さい観察ケースを競争のように見ている。

幼児 「すずむしさん、春ですよ！」「早く起きて下さい！」と毎日霧吹きで土を湿らせ、いつ生まれるかとても楽しみに待つ姿が見られた。

すずむしの誕生を期待しながら、優しく声をかけたり、継続して世話をしたりしている姿を認めていく。

(6月6日)

ついに赤ちゃんが生まれた。朝一番に教師が気付いたが、幼児が気付くまで待つことにした。

幼児 「先生！何か白いものが動いてるよ！」

と、登園してきた幼児が知らせに来た。まだ生まれたばかりで白い皮がついているので、幼児には、すずむしの赤ちゃんだとは、わからなかったようだ。

T 「赤ちゃんだよ！小さいけど、これは、すずむしの赤ちゃんだよ！」

と言うと、次々と友だちに「生まれたよ！」「ニュースだよ！」と大喜びで伝えに行く様子が見られた。

幼児 「今日は、すずむしさんのお誕生日だからHappyバースデイの歌を歌ってあげようや！」

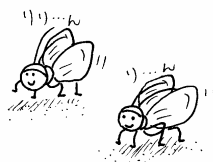
という意見が出て、みんなですずむしの誕生を祝った。

幼児 「畑に行ったら、きゅうりがあるけん、それをあげたらどうかな。」

と相談し合って、一番成りのきゅうりを切ってえさをやる姿も見られた。

すずむし誕生の感動を一緒に喜び合い、友だちのアイデアに共感したり、相談したりしながら誕生を祝おうとしている姿を認めていく。

命が引き継がれる素晴らしさや、すずむしを通して培われてきた幼児同士の温かい関係が、今後の生活の中でも活かしていけるよう、卒園時に「また、すずむしが生まれたら今度は小学校に持って行くからね。」と約束をする。



家庭や地域での生活経験が、幼稚園において教師や他の幼児と生活する中で、さらに豊かなものとなり、幼稚園生活で培われたものが、家庭や地域社会での生活に活かされるという循環の中で幼児の望ましい発達が図られていきます。幼児を肯定的に見ていくことにより幼児との関係をよりよいものにしたり、認められることによって自信がつき自尊心が高まったりするよう、家庭と園とが連携を図っていくことは、とても大切なことです。幼児同士が学び合える場を意図的に設けたり、教師一人一人が、家庭と共に子育てをしていったりする中で、幼児の成長を保護者と一緒に喜び合える関係を築いていくことが大切です。

h

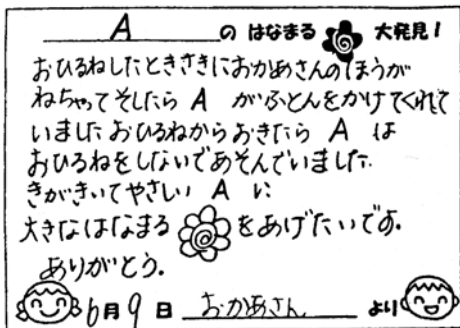
<教師の援助のポイント>

- 花丸カードをクラスで紹介し、友だちのよさに気付いたり、お互いに認め合ったりできるようにしていく。また、友だちのしたこと、よいことは自分もしてみようという気持ちをもてるようにする。

・・・援助のポイント

A児の家から花丸カードが届く。 (6月9日)

花丸カードとは、幼児のよいところや頑張っていることなどを園と家庭が知らせ合い、認め合う中で、幼児の成長を見守っていくものである。



A児をひざに抱き、カードを読む。
お母さんと一緒にお昼寝をしていたところ、A児が寝ているお母さんに、布団をかけてあげていたことをみんなに話す。

T 「Aくん。お母さんがとっても喜んでいたよ。」

A児は、うれしそうに微笑む。

T 「Aくんに布団をかけてもらって、お母さんはどんな気持ちでしたのかな？」

と、周りの幼児にも問いかける。

周りの児 「うれしかったと思うで。」「よう寝れたと思う。」「Aくんにありがとうって思ったろうなあ。」

教師と幼児の
一対一のかかわり
を大切にできる
ように配慮する。

周りの幼児にも
お母さんの気持ち
を考えさせること
によって、A児の
優しさをみんな
で認めることが
できるように
していく。

T 「そうですね。目が覚めた時、布団をかけてもらってお母さんはきっとうれい気持ちになったと先生も思うよ。A君が風邪をひかないように『お母さんがいつも布団をかけてくれる』って前に話してくれたことがあったよね。だから、Aくんもお母さんにしてあげることができたのかもしれないね。Aくん、とってもいいことをしたね。」

A児 「うん。」と笑顔でうなずく。

その後、A児のしたことが刺激となり、他児からも、『お昼寝をしていた時、お母さんに布団をかけてあげた』という花丸カードが何枚か届いた。

A児がお母さんのことが大好きなように、お母さんもA児のことをいつも大切に思っていることを伝えるようにする。

幼児は、家庭や幼稚園で様々な人や環境とのかかわりを通して、多様な面から成長していきます。その成長の姿を花まるカードとして家庭と共有することで、どういうことを大切に育てていくかという教育の視点づくりに役立てたり、幼稚園と家庭の連続性のある保育を展開したりすることができます。

—家庭より—



B の はなまる 大発見!
お姉ちゃんの誕生日の朝のことです。
「たんようひ かめどう!」と油で拾った綺麗な
珍しいお姉ちゃんのお髪をいけてなくプレゼントに
『さみ。Bのお髪にのびたの?』『いい!お姉ちゃん
自分じゃい髪をさませることも選んだ! Bくん
さみは小さな体だけれど、心はすごく大きいた
たね。お父さんは嬉しいわ!』

7月2日 おとうさん よし

一番大切な物をお姉ちゃんにあげたのですわ。そしてお姉ちゃん
が大好きな朝の中、心でいっぱいでした。

C の はなまる 大発見!
えんどう豆のさやをむいて中の
豆を出すのを手伝ってくれました。
えんどうごはんを作って食べました。
豆がきずくに並んでいってよかったです!

6月2日 おばあちゃん よし

とてもお経験ができましたわ。Cちゃん手伝ってくれたの
特別おいしい豆飯ができましたわ!

—園より—



Dくん の はなまる 大発見!
お風呂で昨日遊んだDくん。
大きな池に水が溜まっていたので、昨日は、Tくん
入ると自分も水を運ぶ池にしよう!とDくんは
お風呂の会の時、遊びを振り返る時、お水も大池に
いって水を運ぶのを聞いて、次の日は、水を運ぶと早く大池に
いって水を運ぶのを聞いて、今日、Dくんは、水を運ぶ
瓶、水も運ぶ。水を運ぶのを合せて、池を作ったので
水を運ぶのを聞いて、今日は、水を運ぶのを合せて
Dくん 大発見!

5月28日 せんせい よし

進んで何かに取り組む事ができて、お母さんにびっくりです。
大きくなったDくん、感じました。

Eちゃん の はなまる 大発見!
トイレに行ったら、私の声を聞いて
進んでスリッパを揃えるのができていました。
人が見ていると見なくて、大発見の音が
いって Eちゃん、お水も運ぶ。次の人が、水を運ぶ
トイレに入るのができました。

6月21日 せんせい よし

おうちのトイレでもスリッパをそろえています

幼児が園生活に慣れ、自覚をもって行動し始めると、少しずつ集団の中の一人という意識が芽生えてきます。自然な流れの中で、自分たちの生活は自分たちで作り上げていくことに気付き、友だちとのやりとりを通してしなければならない理由を納得していきます。こうした体験の積み重ねによって、集団の中で生活していくために必要な習慣や態度を身に付けていくことが大切です。

<教師の援助のポイント>

- 友だちと進める活動の中で、自分の思い通りにいかないこと、相手の気持ちに寄り添うことの難しさ、一つの物事を大勢の友だちと進める時のコミュニケーションの取り方など、友だちとのかかわりについて幼児同士が話し合う場と時間を十分もつ。
- 葛藤体験の中で、幼児なりの思いを表現しようとする気持ちや相手に伝えようとする気持ち、価値のある活動を自ら進んで行おうとする気持ちを大切に育み、教師の思いを押し付けず、幼児同士で考えさせることを大切にする。

……援助のポイント

うさぎ当番をグループでしていたある日… (11月)

うさぎ当番のAグループ。「みんな来たからやってくるわ！」と六人が勇んでうさぎ小屋に行き、ホウキではく人、ゴミを火ばしで取る人、水入れを洗って水を入れてくる人、役割を決めて責任持って掃除をしている。

ところが…水入れを水道の洗い場で洗っていたA子、B子は「先生、この洗い場もタワシでこすってあげるわ！」と水道のタイルを洗い始めた。教師は「ありがとう！助かるよ！」と声をかけ、様子を見守る。

すると、うさぎ小屋を掃いていたC子が…

C児 「なんで～！水入れ洗いに行って帰ってこんから心配しよったのに！どうしてここ洗よん！！！」

A児 「だってキレイにしようと思ったんじゃもん」

B児 「うん…」

当番を責任をもってやりとげようとする思いの強いC子。

自分たちで気付いて、キレイにしようと思ったA子とB子。

C児 「そんなら、当番終わってでえ～のに！なんで今なんよ！」

A・B児 「水入れ洗よったら思いついたんじゃ。」

C児 「でもあっちで当番しようる人もおるんよ！待ちよったのに！」

A児 「みんなが使うところじゃが！きれいになってええが！」

C児 「じゃ、うさぎ小屋の掃除は、途中でええん？」

幼児が自分で気付き、行動した背景にある「自分の大好きな幼稚園の、みんなが使う場所をきれいにしよう」という気持ちを大切に受け止める。



B児 「いけんと思う…でもここ洗ってあげるとええなと思ったんじゃもん…」

どちらの思いもぶつかり合う。自分の気持ちがどうすれば相手に伝わるか四苦八苦し、涙が流れた。

T 「先生な、どっちも大事だとも思う…それに、こんなにAちゃんBちゃんCちゃんが思ったことを言ってくれてものすごくうれしい…先生にはどっちも大事としか、言えないわ…」

どちらも必要な気持ちであることを幼児の心に残したかったため、結論は出さずに様子を見る。

三人が顔を見合わせ、黙っている。

黙ったままだが、三人はそれぞれに目を合わせ、相手の心の内を感じているようである。

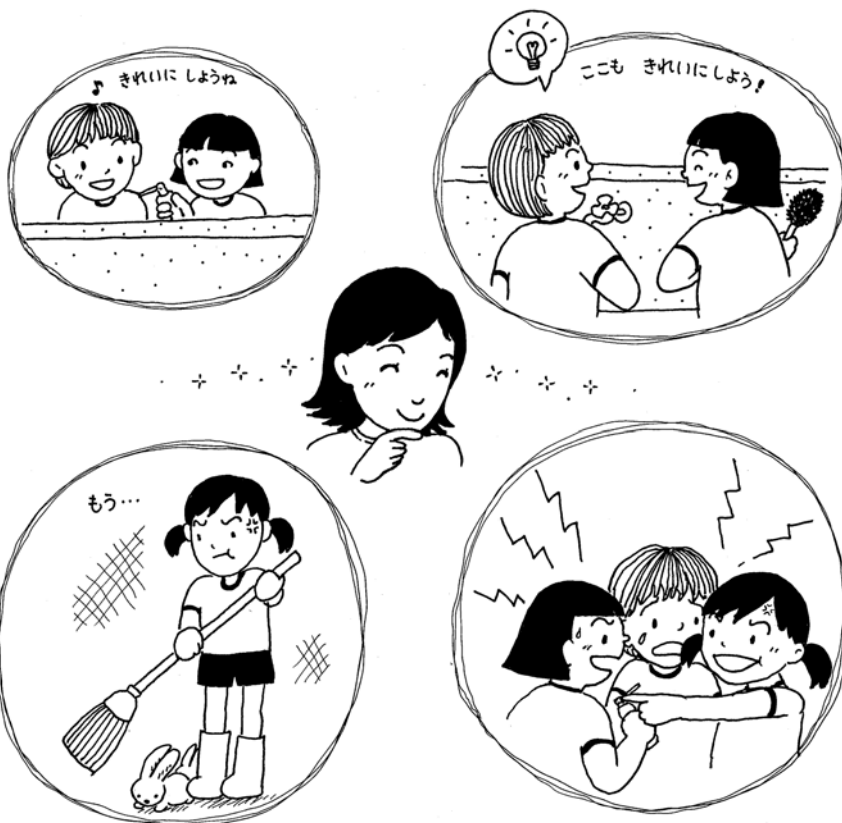
(そのまま数分が経つ…)

プラスとプラスの価値ある行動について、幼児が率直に自分の思いや考えを出し合い、ぶつかり合う場合は、非常に重要である。その中で、感情体験と共に、相手の考えを理解しようとする態度を育み、様々な場で、自分の行動やコミュニケーションのとり方について考え、行動する力を身に付けることができるようにするという視点で、今後とも支援していきたい。

どちらも大切な思いと、自分の思いをい言間と、お分とすこの素伝
大と自こに仲こにうあおがどちも
た、なるるこにうあ
い、たなるるこにうあ
思、つんあ互おがど
こ、合えあ互おがど
の、い合えあ互おがど
を、をい合えあ互おがど
間、お互おがど
と、お互おがど
分、かり合おがど
と、かす心おがど
す、この気、持
ら、この気、持
の、この気、持
素、この気、持
晴、この気、持
え、この気、持

互いの心に触れられるように教師はそばで見守る。

三人の小さな表情の変化を見逃さないように、静かな時間をもつ。



友だちとのかかわりに広がりや深まりが見られるようになると、「こうしたい」「もっとこうしよう」などと、友だちと共通の目的をもって繰り返し遊びを楽しむようになります。こうした遊びの中で、自分の思いや考えを相手に伝えたり、相手の気持ちや考えを受け止めたりしていくことの大切さに気付いていきます。このような協同的な活動の中で、一人一人の幼児が満足感や充実感を味わい、友だちと一緒に遊ぶことの楽しさを実感できるようにすることが大切です。

<教師の援助のポイント>

- それぞれの幼児が自分の思いや考えを表現できるような雰囲気づくりを大切にする。また、遊びの中で考えたことが実現できるような環境構成や援助をしていくとともに、葛藤や戸惑いを丁寧に受け止め乗り越えていけるよう支援していく。
- 遊びのイメージが膨らむような体験を重視するとともに、話合いの場を設けるなどして、友だちと一緒に考えやアイデアを出し合いながら主体的に遊びをつくり出していけるよう援助していく。

……援助のポイント

お化け屋敷を作ろう！

(5月31日)

5月下旬から段ボール箱でペットの家を作って遊んでいるうちに、家が壊れてきたことからお化け屋敷をイメージし、お化け屋敷作りが始まった。

もっとたくさん入れるようにしたいからいっぱい段ボール箱ちょうだい。

屋根もできるような大きい段ボール箱が欲しいな。その方がお化け屋敷らしいもん。

ここを入り口にしよう。

ここに絵を描こうや。

これ(廃材)でお化け作る？

一緒に遊んでいる幼児同士で自分の思いを伝えながら遊ぶ姿が見られる。そのうち、一生懸命にお化け屋敷作りをする幼児、電気を消しカーテンを閉めて暗い雰囲気を出して楽しむ幼児、お化けのお面や服を作ってお化けになって友だちをおどかすことを喜ぶ幼児など、遊び方や楽しみ方は様々だが、お化け屋敷という共通のイメージをもって遊んでいる。

幼児の思いやイメージをしっかりとらえ、実現できるよう、要求に応じて大きな段ボール箱や遊びに必要な廃材・材料をタイミングよく準備する。

個々の幼児の願いを受け止め実現できるように援助したり励ましたりする。

それぞれの幼児が取り組んでいることを他の友だちやグループにも知らせ、自分たちのしていることがお化け屋敷ごっこをより楽しいものにしていくことに気付かせるようにする。

“〇〇小祭り”のお化け屋敷に行こう！（6月4日）

例年、親子で招待してもらおう学区の小学校の祭りの出し物の中に“お化け屋敷”があることを知り、遊びの刺激になると考えた。前日、小学校からもらっていた地図を幼児と共に見ながら、「先生が黄色い印を付けている所がお化け屋敷だよ。どんなお化け屋敷かなあ。お家の人と一緒に行って見てね。」とお化け屋敷を意識付けておく。お化け屋敷があることをとても喜び、「やったー！」「絶対お化け屋敷行こう！」と、張り切っている様子が伺える。

事前に“〇〇小祭り”のお化け屋敷について知らせ、期待して積極的に参加できるようにする。また、この体験が園でのお化け屋敷ごっこに生かせるよう、見どころを話し合っておく。

“〇〇小祭り”から帰って

（6月15日）

小学校からの帰り道や弁当時に、お化け屋敷に行ったことを話してくれる中で、小学生のお化け屋敷に刺激を受けていることが伝わってくる。



お化け屋敷に行った感想を幼児同士が言い合えるような雰囲気づくりを大切にするとともに、教師もしつかり話を聞き、驚いたり共感したりする。

“〇〇小祭り”での体験は、自分たちの遊びのヒントになると考え、“〇〇小祭り”のお化け屋敷について尋ねたり、どんなお化け屋敷にすればお客に楽しんでもらえるかを話し合ったりする場を設ける。

弁当後には、さっそくお化け屋敷ごっこをしようとしたり、年少児を呼びに行ったりする姿が見られるが、遊び方がバラバラであるため、楽しみにやって来た年少児も「どこに行ったらいいの？」「お化けは？」と聞いてくる。共通の目的に向けて友だちと一緒に遊びを進める楽しさを味わってほしいと考え、降園時に話し合いをする。





今日もお弁当の後、お化け屋敷で遊んで楽しかったよね。小さい組さんも来てくれたよね。でもね、まだ、みんなお化け屋敷を作っている途中だったし、小さい組さんたちは何がどうなっているか分からなくて、お化けがないから「怖くない」って言ってたよ。どうしたらいいかなあ。

お化けの服を作って着る。

あのさ、スプレーで水をかけておどかす。

みんなでお化けになって、お客さんが来るまで隠れて、来たら、バーッと出たらいい。

何のお化けになるか決めて、どこの場所に隠れるか、みんなで相談する。

準備ができてから小さい組さん呼びに行く。

部屋を暗くする。

お客さんが来たら、お化け屋敷に入る前にスタンプ押すの。

案内する人もいたよ。



いい考えがいっぱいでできたね。じゃあ、何のお化けになるか相談するのね。みんなはどんなお化けになりたい？

何のお化けになるか決める！

絶対ねこ娘！

俺、一つ目小僧のまんま。

俺も。

のっぺらぼう！

カラスお化け！



なんかいいお化け屋敷ができそうになってきたね。何か用意する物ある？

段ボールがもっといるんじゃない？いろんなお化けが隠れる所があると思うけど。

お肉とか入っているパックでお面作りたいから、みんなで持って来たらいい。

もっと怖いお化け屋敷を作ろう！

(6月18日)

多くの幼児がお化け屋敷で使えるような廃材を持って登園して来る。お化け屋敷をすることを楽しみにしている様子が伺える。早速自分のなりたい役のお化け屋敷を作ったり、お面や衣装、受付のコーナーを作ったりしている。

お化け屋敷や
なりたいお化け
に必要な材料を、
幼児と共に考えたり
用意したりする。

いつもいつも〇〇ちゃんの思うようにばかりはいかない

そのうち、同じ一つ目小僧の家を作っているA児とB児が言い合いを始めた。

A児 「もう、やらんで！ここはつなげたくないんだ！」と怒って言う。

B児 「なんで？今ぼくたちここをつなげて出られるようにしようってことになってしてるんだよ。」

A児 「こんなところから出られなくてもいいんだよ。もう、変になるじゃないか！」と、一つ目小僧の出入り口を直そうとする。

一緒に遊んでいたC児は「どうする？」と言い、困ったような顔をしている。

すると、

B児 「いつもいつもAちゃんの思うようにばかりはいかないんだよ！」と顔を真っ赤にして怒る。

A児 「もういい！もうやらない！」と、その場を離れて部屋を出て行く。

T 「Aちゃん、もうお化け屋敷せんのか？」と声をかけると、

A児 「もう絶対しない。あんな変なの。」と答える。

T 「そうなんだ。みんなはあそこから出たり入ったりしたいみたいだね。」とだけ言って、様子を見守る。10分程すると、A児は元の場所に戻り、

A児 「まあ、いいや。ここつなげて作っても。」と言いながら、またB児らと一緒に遊びを続ける。

B児 「Aちゃんここ持ってて、ぼくが切るから。」

A児 「いいよ。ねえ、もうちょっとここ大きく切った方がいいんじゃない？」とB児と会話を交わしながら遊ぶ。

教師はすぐ仲裁に入るのではなく、互いの思いがぶつけられるよう、しばらく様子を見守る。

友だちの思いを受け入れながら遊ぶことはA児の課題でもあったため、A児に友だちの思いだけ知らせ、A児自身が気持ちを落ち着かせる時間を設け、様子を見守る。

A児が自分から遊びに戻ってきた気持ちを大切に受け止め、引き続き楽しめるよう援助していく。



お客さんを呼んでこよう

(6月19日)

お化け屋敷の準備が完成したということで、他のクラスや年少に声をかけ、お客さんを呼ぶことになる。幼児の中には、それぞれのお化け役の友だちに、「のっぺらぼう、準備OK?」「ねこ娘は?」と、客をおどかさず準備ができていのかどうか大きな声で確認をしてから、「じゃあ、呼んで来るからね」と客を呼びに行く幼児もいる。お化けになっている幼児たちは、「もう来た?」と案内役の友だちに尋ね、お客さんが来ることをとても期待している様子が伺える。

他のクラスの友だちや年少児が来ると、連れて来た幼児や案内役の幼児たちは「ここから入って」「次はこっちこっち。壁をトントンと叩いてみて」など、張り切って客を案内している。お化けの幼児たちも、声を出しながら客をおどかさうと頑張っている。

お化けになって演じたり自分の持ち場で頑張ろうとしたりしている幼児をしっかり認め励ます。

年少児が驚いたり喜んだりしている様子を伝え、満足感が味わえるようにする。



もう、カラスじゃないお化けになろっと！

カラスお化けのところに客が来ると、カラスお化けの幼児たちは、恥ずかしがってモジモジしている。それを見たD児は、「カラスお化けが恥ずかしがってお化け屋敷らしくない。もっとちゃんとやって」と、カラスお化けの幼児たちに伝えている。カラスお化けの子どもたちは、「だって」と、顔を見合わせている。他の幼児も、「そうだよ。そんなに恥ずかしがったらおもしろくない。」と言いはじめ。

教師は、自分の役になりきって遊ぶことを楽しんでほしい、また、自分の役をどうやって果たしていけばよいのか考える機会にもなってほしいと考え、「じゃあ、どうしたらいいかなあ？」と投げかける。

C児や周りの幼児は、「こうやって急に行っておどかさんだよ」「大きい声で言わないと」など、身振りを付けて教えようとしている。しかし、カラスお化けの子どもたちは、「どうする？」と、コソコソ話している。

そこで教師は「じゃあ、先生もカラスお化けになって一緒にお客さんをおどかさわ」と、服を着て一緒に隠れる。カラスお化けに扮したE児は、教師がするのを見ながら、一緒に「うわーっ」とおどかさす。

F児とG児も「どうする？頑張る？」と小さな声で話しているが、おどかすのは抵抗があるようだ。そのうち、「もう、カラスじゃないお化けになろっと」と言って、お化けになりきって楽しそうにしている幼児の多いねこ娘の役の方に移っていった。

教師はもう少し頑張ってお化けの役をしてほしいという思いもあったが、あまり引っ張り過ぎるより、自分のなりたい役になって、お化け屋敷ごっこを楽しんでほしいと考え、F児とG児のその後の様子を見守ることにした。

その後も、F児とG児は、お化けの衣装を身に付けることを楽しんでいる様子だった。

それぞれの持ち場で頑張ろうとしている幼児をみんなが頼りにしていることが伝わるよう励ます。

どうしたらよいか、周りの幼児も一緒に考えられるよう投げかける。

カラスお化けの幼児たちが恥ずかしがっているため、教師も服を着て一緒になっておどかさす。

それぞれの幼児が何を楽しんでいるのかを見極め、満足感が得られるよう援助する。

II 小学校編

1 学級活動（話し合い活動）

（1）話し合い活動の意義

話し合い活動は、子どもたちのよりよい自主的・自治的活動を生み出す原動力となります。

**すてきな自分
すてきな友だち
楽しいクラス**

認め合う。

工夫する。

自分の考えを話す。

選択・決定する。

こんな力が身に付くよ。

助け合

進んで行動する。

友だちの話を聞く。

問題に気付く。

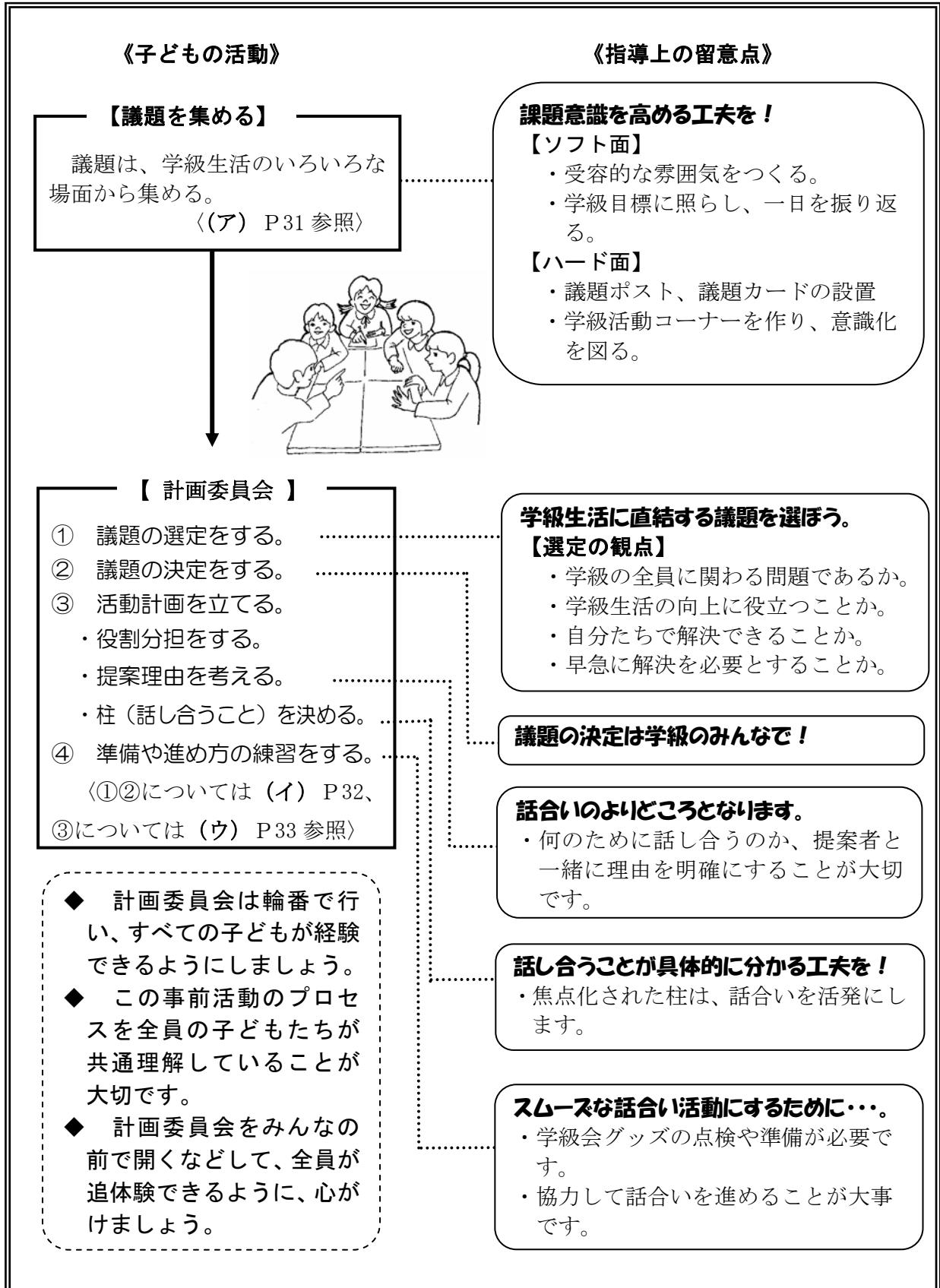
〈学級活動〉で解決・実践

思い
願い

学級生活

(2) 話し合い活動の過程及び指導上の留意点


ア 事前の活動について





(ア) 議題を集めよう ～こんなところから課題のヒントが見つかります。～


子どもたちの悩みや願いをキャッチできる心のアンテナをのばしておこう。

低
学
年

- つぶやきや会話から
 

また、みんなで遊びたいよ。
- 子どものからの訴え
 

ブランコの順番を守ってくれないよ。
- 議題ポスト
 

・やってみたいこと
・解決したいこと
・困っていること
などはありますか。
- 朝の会や帰りの会
- 日記
- 教師からの投げかけ
 

雨ふりの日には、教室で静かに過ごせていないね。
雨ふりの日の遊びを相談したらどうかな。



発達段階に応じた議題ポストや提案用紙を工夫しよう。

(例)

あのねカード

せんせいあのね・・・

きゅうしよくをみんなと

たのしくたべたいな。

なまえ ○ ○ ○ ○

中
学
年

- 議題ポスト
- 学級日誌や班ノート
- 日記
- 係
- 朝の会、帰りの会
- 教師からの投げかけ

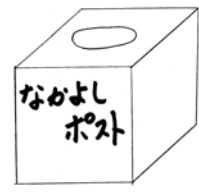


学級会コーナー

こんな議題が考えられますね。

- サッカー大会をしよう。
- 学級の旗をつくろう。
- 学級のボールの使い方を考えよう。

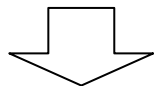
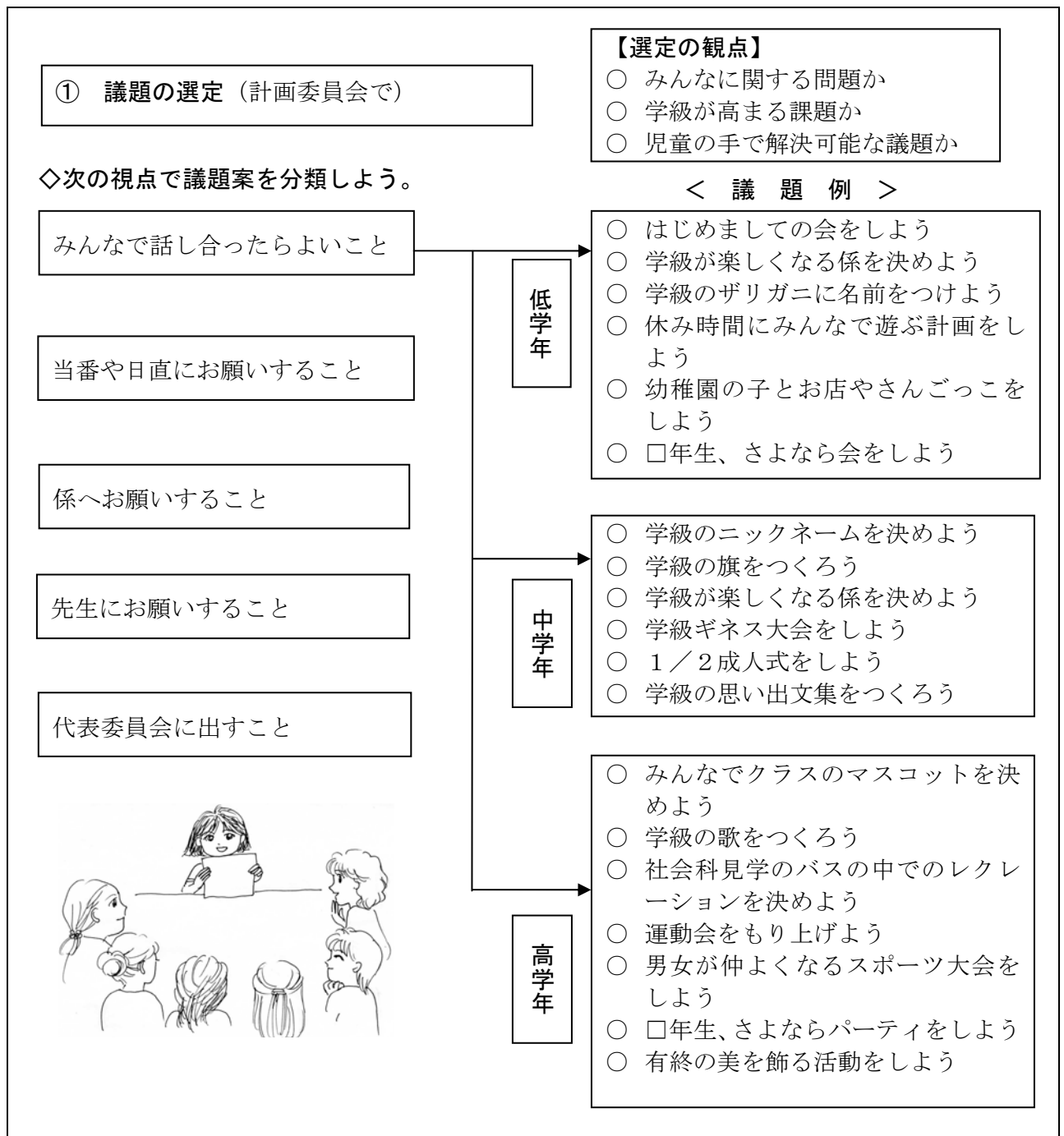
《議題例の提示》



高
学
年

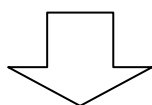
- 議題ポスト
- 係
- 児童会や委員会
- 学年行事
- 班長会議
- 朝の会、帰りの会
- 日記
- 教師からの投げかけ

(イ) 議題を決めよう



今、最も必要な議題案を1つ選ぼう。

② 議題の決定 (みんなで話し合って決定する。)



返事カードについては、P.38～39 参照

③ 取り上げられなかった議題の処理 (計画委員会で返事を書く。)

(ウ) 話し合いの準備をしよう

話し合いの進め方については、一斉指導で共通理解を図っておくことが大切です。

① 計画を立てよう (計画委員会)

【低学年】

- 司会グループを作る。
- **役割分担**を決める。
 - ・司会者
 - ・黒板係
 - ・ノート係
- 話し合いの内容を決める。
 - ・柱、順序、時間
- 話し合いの進め方を決めて練習をする。

- ・司会者…指名をする。
- ・黒板係…賛成・反対のことばカードをはったりする。
- ・ノート係…決まったことを書いたり発表したりする。

- ・最初は、全体の流れを子どもたちがつかむことができるように、教師が全部の役割をしましょう。
- ・徐々に司会者グループに簡単な役割を受けもたせ、話し合いの進め方に慣れさせましょう。



【中学年】

- **役割分担**を決める。
 - ・司会、副司会
 - ・黒板書記
 - ・ノート書記 (記録)
- 提案者と一緒に**提案理由**を考える。
- 話し合いの内容を決める。
 - ・話し合いの柱をしぼる。
- 活動計画 (P. 39~41 参照) を作成する。
 - ・順序、時間配分
- 話し合いの練習をする。

- ・司会者…多くの意見を引き出すようにする。
- ・副司会…会の進行、発言が公平にできるように指名の手伝いをする。
- ・黒板係…みんなの意見を書いたり、賛成・反対のマークをはったりする。
- ・ノート係…決まったことを発表する。

※話し合いを深めるために・・・

① 提案理由について

提案理由はしっかり考えさせましょう。まず、**提案者の意見**をしっかり聞きましょう。

- ・「なぜ、その提案をしたのか？」
- ・「どのようにしたいのか？」
- ・「みんなにわかりやすくするための工夫はないか？」
(アンケート、資料等の活用) など

② 話し合いの柱について

- ① 教師が決めること、係が決めること、みんなが決めることに分けます。
- ② みんなが決めることの中から、**最も大切なものを**話し合いの柱にします。

【高学年】

- **活動計画表**を作成
 - ・役割分担
 - ・提案者との打ち合わせ
 - ・話し合いの**柱**や時間配分を考える。
- 話し合いの進め方を決めて練習をする。

② みんなに知らせよう

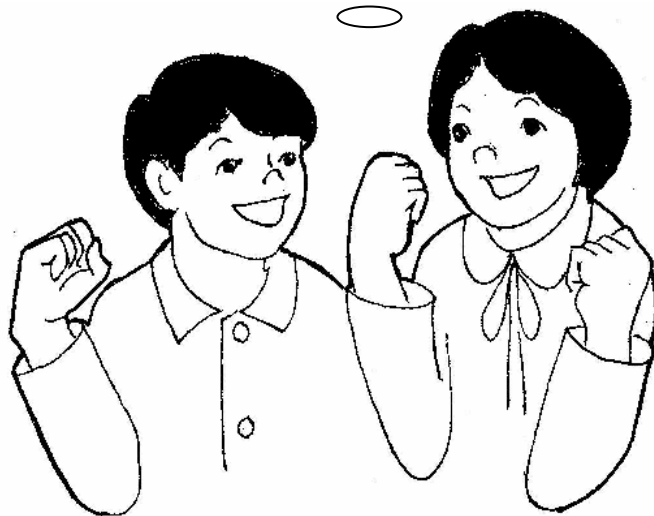
- 朝の会や帰りの会で、議題や提案理由等をみんなに知らせる。
- 学級活動コーナーに話合いの計画を掲示する。
- 学級会ノートに自分の考えを書いておくように全員に伝える。

・何のために話し合うのかが明確になるようにしましょう。

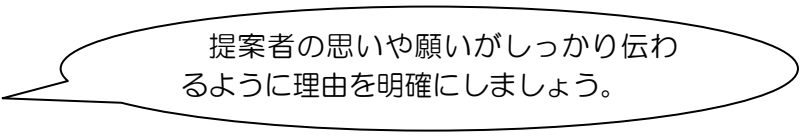
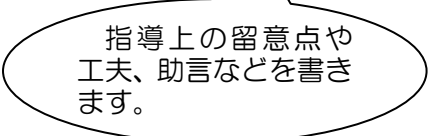
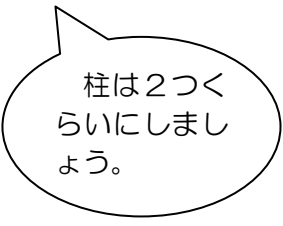
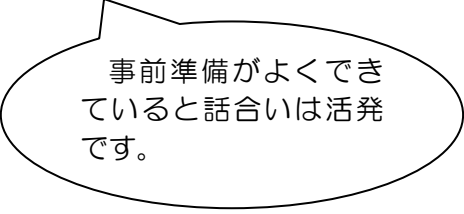
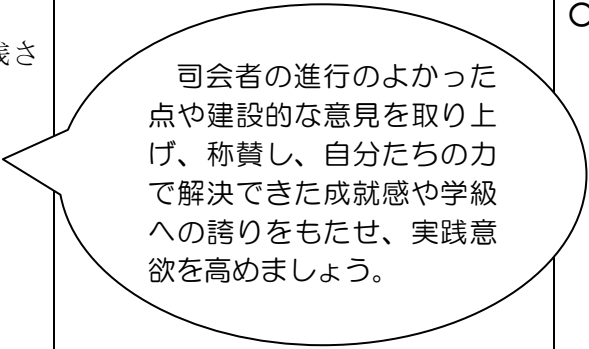
・話合い活動への見通しを持ち、期待感を高めるために大切なことです。

・教師が**事前に**ノートに目を通して **励ましのことば等**を入れておくことで子どもたちは自信や意欲をもって発表できます。

さあ、いよいよ
話合い活動だ！



(エ) 学級活動（話し合い活動）指導案の書き方（例）

議 題	*学級集団の発展に向けた解決課題や共同課題を選ぼう。		
提 案 理 由			
話し合いのめあて	*実践を見通し、さらに焦点化しためあてを作りましょう。		
司会者グループ	司会		副司会
	記録	(黒板) :	(ノート) :
	児 童 の 活 動	教 師 の 支 援	評 価
導 入	1 はじめの言葉 2 学級歌 3 係の紹介 4 議題の確認 4 提案理由の説明 5 決まっていること の確認	○ 雰囲気や和らげることや、学級の話合いであることを意識させるために学級歌を歌う。 	* 評価の観点や教師の視点・評価方法を記入します。
話 合 い	6 話し合い 柱(1) 柱(2) 	○ 学級目標や提案理由を意識させて話し合うように助言する。 	○ 友だちの考えと比べながら、自分の意見を述べているか。 (発言) ○ 学級の一員としての自覚をもって、話し合いに参加しているか。 (発言・観察) ○ 学級目標や提案理由をもとに発言しているか。 (発言)
ま と め	7 決まったこと、残された問題の確認 8 振り返り・感想 9 先生の話 10 お終わりの言葉		○ めあてにそって振り返りができているか。 (学級会ノート)

イ 話し合いの過程

楽しく話し合うことができるように

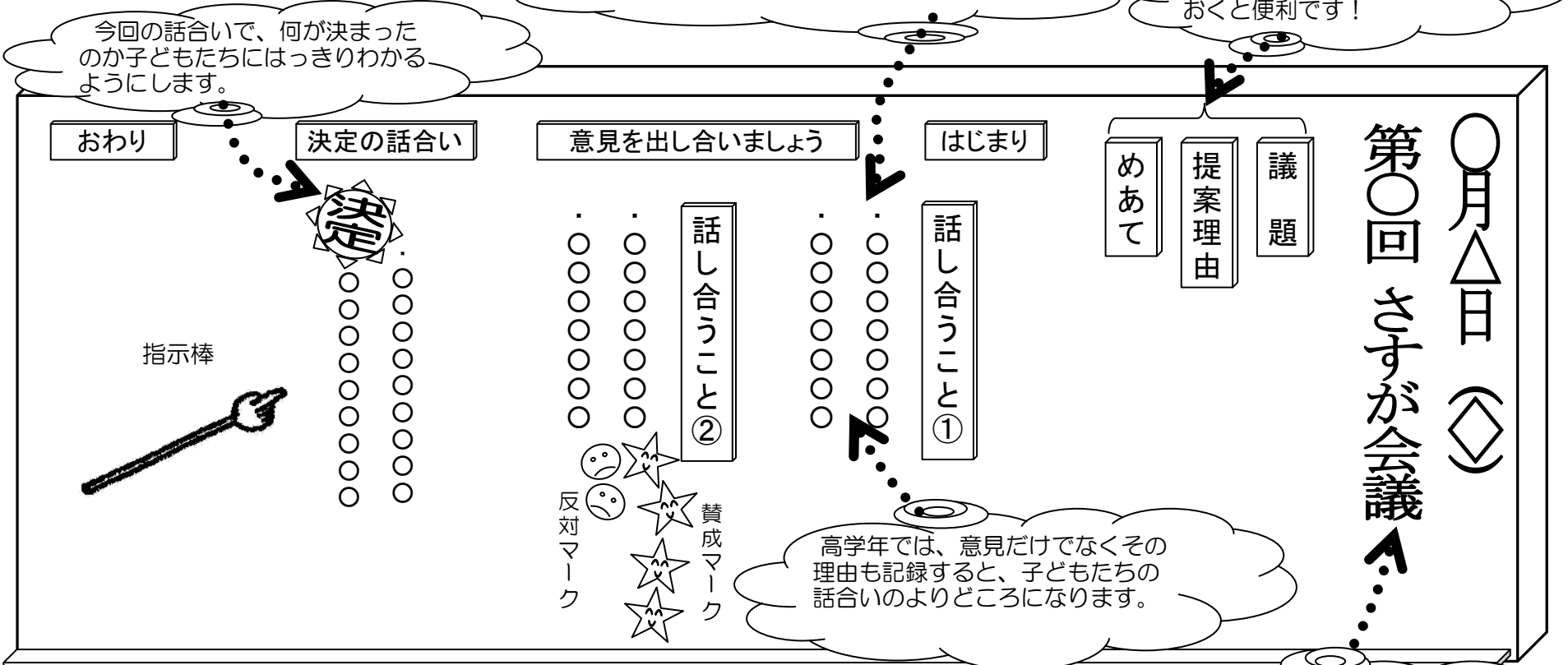
① 話し合いを始める。
・役割分担は下を参考に

- ② 意見を出し合う。
- 大切にしたい発言**
- ・議題や提案理由を大切にしたい発言
 - ・今までの実践経験を生かした発言
 - ・活動の見通しをもった発言
 - ・学級全体のことを考えた発言
 - ・自分の考えを他の意見に譲った発言
 - ・友だちの意見を生かしたり、友だちの気持ちを考えたりした発言
 - ・両方の（いくつかの）意見を組み合わせた発言
 - ・新しい考えや初めてだけど、挑戦してみようといった発言
 - ・ふだん意見を言わない子の発言、声なき発言、少数意見
 - ・話し合いの進行を助ける発言

これらの発言は、先生の話の中での**評価のポイント**にもなりますね。

- 話し合いを活発にするために**
- 事前に学級会ノート等（P. 45～46参照）を使って、一人一人が自分の意見や考えをもち、自信を持って発表できるようにしておきましょう。
 - 発言が少ない時には、近くの人やグループの人と話し合う時間をとることも有効です。

- 基本ルールとして**
- 話す…「はい」と返事をしてから発言する。
 - 聞く…「相手の話を最後まで聞く」「体を向けて聞く」「うなずきながら聞く」「考えのよさを見つけながら聞く」

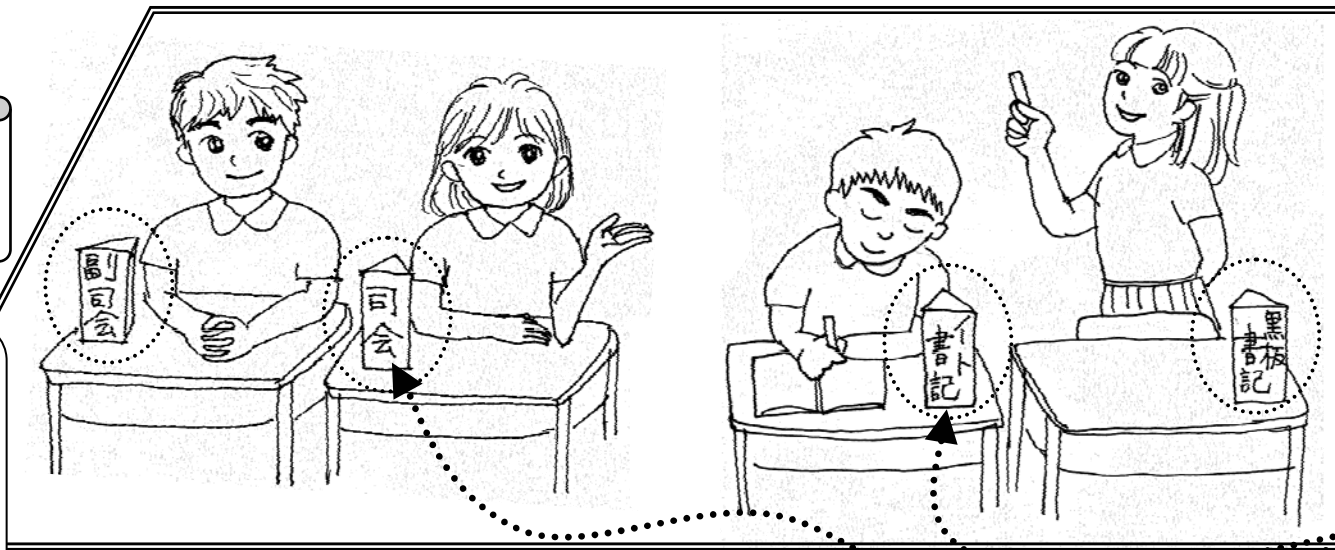


低学年は、話し合うことの内容を教師が書いたりはったりしてもよいでしょう。

黒板には「議題」等のカードをあらかじめ作っておくと便利です！

今回の話し合いで、何が決まったのか子どもたちにはっきりわかるようにします。

高学年では、意見だけでなくその理由も記録すると、子どもたちの話し合いのよりどころになります。



「2組スマイル会議」「ホップステップ会議」等、自分たちのクラスだけの名称を決めてもよいでしょう。

子どもたちの役割への意欲を高めるために「司会」等の役割の立て札やカードを置くとよいでしょう。

③ みんなで決定する。

④ 話し合いを振り返る。

話し合いの時間の最後に、先生の話とともに一人一人がその日の話し合いを振り返る時間を持ちましょう。

話し合いの最後に

- Q 意見が対立したら…？**
- 話し合いのめあてにもどって考えるように助言してみましょう。また、対立しているそれぞれの意見のよさや違いを教師が整理して提示し、子どもたちがまとめていける方向性を示していけるといいですね。

- 《一人一人が》** (例えば・・・)
- 自分の意見をはっきり話しましたか？
 - 友だちの考えをしっかりと聞きましたか？
 - 提案理由に立ち返りながら、決めることができましたか？

- 《先生の話の中で》**
- 司会、副司会の進め方のよかったところ
 - 話し合いの中で一人一人が輝いたところ
 - 実践への期待感を高めたり意欲づけを

ウ 事後の活動について

(ア) 実践までの活動 ～実践への意欲を高めよう～

○ 決まったことや実施計画を分かりやすく全員に提示し、実践への見通しをもたせましょう。

○ 準備の進行状況を把握して、励ましや称揚の言葉かけをしましょう。



<学級会コーナーの写真>

(イ) 実践の振り返り ～成長の喜びを味わえる振り返りにしよう～

司会グループが進める。



- 楽しかったですか。
- それは、どうしてですか。
- 今度するときに直したいことがあります。

<みんなで>

この点について振り返りをしよう。

- この活動を通して
- 1 自分のよさの発見
 - 2 友達のよさの発見
 - 3 クラスのよくなったところ

<一人一人>

教師は、

- 意欲的な態度
 - 協力的な態度
 - 創意工夫ある態度
 - 自発的・自治的態度
- について、称揚の声かけをしましょう。

<教師から>

エ 家庭との連携 ～学校と家庭とで子育て感を共有しよう～

【学級通信例】

第1学年 学級通信

おおきくなあれ

ザリガニの名前がきまったよ

～学級活動「ザリガニのなまえをきめよう」～

先週の生活の学習で、虫さがしをしていたところ、体育館の裏の溝の中で、ザリガニを3匹見つけました。その中の1匹は、片方のハサミがとれていたので、保護して(?)教室で飼うことにしました。図鑑で飼い方を調べて、ザリガニのいえをつくったり、えさを持ち寄り、水槽の水かえをしたりして、大切に飼っています。そこで、名前を付けて、もっとかわいがってやろうということになり、みんなと相談をしました。まず、それぞれの班で名前を考え、その中から1つに決めていくことにしました。

その結果、「舟岡山の近くで見つけたから。」という理由で「ふなちゃん」に決定しました。

名前を決める前に、オスかメスが分からないと名前が付けにくいと言う子ども達の声。そこで、図鑑でオスとメスの見分け方について調べ、メスだということが分かりました。話し合うために必要な事柄に気づき、自分たちで調べたことをもとにして話し合いを進めようとする態度がすばらしいですね。



子どもの価値ある姿を家庭に連絡することで、学校と家庭とが同じ思いをもって、子どもを認めたり、励ましたりすることができます。

(3) 資料

ア 提案カード

【低学年用】

ていあんカード

がつ 日にち

なまえ()

【はなしあってほしいこと】

【はなしあいたいわけ】

おへんじカード

さんへ

ぎだいをいれてくれてありがとう!

あなたがていあんしてくれたことは

- (1) がつ にちのがつきゅうかいではなしあいます。
- (2)あさのかい、かえりのかいではなしあいます。
- (3)せんせいからおはなしがあります。

がつ にち ()より

【中学年用】

ぎだいていあんカード

月 日

名前()

【みんなで話し合いたいこと】

【りゆう】

ぎだいをていあんしてくれてありがとう!

さんへ

あなたがていあんしてくれたぎだいは

- (1) 月 日の学級会で話し合います。
- (2)朝の会、帰りの会で話し合います。
- (3)_____にお願いしました。
- (4)先生にお願いしました。

月 日 計画委員会より

【高学年用】

議題提案カード

月 日

名前()

【提案したい議題】

【理由】

議題を提案してくれてありがとうございます！

さんへ

あなたの提案は

- (1)学級会で話し合います。
- (2)朝の会、帰りの会で話し合います。
- (3)係や委員会にお願いしました。
- (4)先生にお願いしました。

月 日 計画委員会より

イ 計画委員会ノート

【低学年用】

だいいかい がっきゅうかい かつどうけいかく

①しかいグループのかかりをきめる

☆やくわりをきめましょう。
なりたいものをえらんでください。

しかい	()
ふくしかい	()
こくばんきろく	()
ノートきろく	()



②ぎだいをえらぶ

☆ぎだいをきめます。
ふくしかいさん、よんでください。

☆どのぎだいかいいい、いけんをいっ
てください。

ぎだいとていあんりゆうをよむ。

- ◆がっきゅうのみんなのためになることですか。
- ◆がっきゅうのせいかつが、いまよりのしくよくなることですか。
- ◆いますぐ、はなしあったほうかいいいことですか。
- ◆じぶんたちできめたり、やれたりすることですか。

《いいなとおもうぎだい》 1～2つをえらぶ。

☆
☆



③みんなでぎだいをきめる

☆けいかくいんかいから、おしらせ
します。

☆よいとおもうものをえらんでくだ
さい。

☆()にきまりました。

- ◆あさ・かえりのかいで、はなしあってきめる。
《きまったぎだい》
- ☆
- ◆えらばれなかったぎだいに、へんじをかく。

【低学年用】

だいいかい がっきゅうかい かつどうけいかく

④いあんりゆうをかんがえる	
☆いあんりゆうは、みんなに、よくわかってもらえるものになっていますか。	◆がっきゅうのみんなに、よくわかるかどうかをかんがえる。(ていあんしゃといっしょに)
↓	
⑤はなしあいのめあてをきめる	
☆はなしあいのめあては、どのようにしたらいいですか。	《はなしあいのめあて》 ☆
↓	
⑥はなしあうことをきめる	
☆はなしあうことをきめます。 ☆じゅんばんやじかんをきめます。	《はなしあうこと》 ☆ ☆
↓	
⑦はなしあいのじゅんぴをする	
☆はなしあいに、よういしておくときよいものがありますか。 ☆すすめかたのれんしゅうをします。	《よういするもの》 ☆ ☆ ☆
↓	
⑧がっきゅうのみんなにしらせる	
☆けいかくいんかいから、おしらせします。 ☆がっきゅうかいノートに、じぶんのかんがえをかいておいてください。	◆ぎだいとていあんりゆうは () です ◆はなしあいのめあては () です ◆はなしあうことは () です (だしてもらう日をつたえておく)

【中・高学年用】

第1回 学級会 活動計画

①司会グループの役割を決めよう	
☆役割を決めましょう。なりたい役を選んでください。	司 会 () 副司会 () 黒板記録 () ノート記録 ()
↓	
②議題を選ぶ	
☆議題を決めます。 副司会さん、読んでください。 ☆どの議題がいいか、意見を言ってください。	議題と提案理由を読む。 ◆学級のみんなのためになることですか。 ◆学級生活をより楽しく、よりよくすることですか。 ◆今すぐ、話し合った方がいいことですか。 ◆自分たちで決めたり、やれたりすることですか。 (1~2つにしぼる)《候補になる議題》 ☆ ☆
↓	
③学級全員で議題を決める	
☆計画委員会で話し合ったことをお知らせします。 ☆よいと思う議題を選んでください。 ☆()に決まりました。	◆朝・帰りの会などで話し合って決定する。 《決定した議題》 ☆ ◆選ばれなかった議題に返事を書く。

【中・高学年用】

第2回 学級会 活動計画

④提案理由を検討する	
☆提案理由は、みんなによく分かってもらえるものになっていますか。	◆提案のねらいが、学級全員によく分かるように提案理由を検討する。(提案者もかわる)
↓	
⑤話合いのめあてを決定する	
☆話合いのめあては、どのようにしたらいいですか。	《話合いのめあて》 ☆
↓	
⑥話合いの柱を決定する	
☆話合いの柱(内容)を決めます。 ☆順序を決めます。 ☆時間配分をします。	《話合いの柱》 ☆ ☆
↓	
⑦話合いの準備をする	
☆用意しておけばよい資料がありますか。 ☆進行の練習をしましょう。	《用意するもの》 ☆ ☆ ☆
↓	
⑧学級全体に知らせる	
☆計画委員会からお知らせします。 ☆学級会ノートに、自分の考えを書いておいてください。	◆議題と提案理由は()です。 ◆話合いのめあては()です。 ◆話合いの柱は()です。 (提出日を伝える)

ウ 学級会の進め方 (司会グループ用)

【低学年用】

がっきゅうかいのすすめかた

ぎだい	
ていあんのりゆう	
はなしあいめあて	
1はじめのことは	これから、だい()かい がっきゅうかいをはじめます。 みんなで、がっきゅうのうたをうたいましょう。
2やくわりのしょうかい	やくわりをしょうかいします。しかいの()です。 ふくしかいの()です。こくばんきろくの()です。 ノートきろくの()です。よろしくおねがいします。
3はなしあうことのかくにん	きょう、はなしあうことは『 』です。 ぎだいをだしてくれた()さんに、わけをはっぴょうしてもらいます。 ()さん、おねがいします。ありがとうございました。 きょうのはなしあいのめあては『 』です。
4はなしあい	では、はなしあいをはじめます。じかんは①は ~のほり(ふん)で②は ~のほり(ふん)までです。
はなしあうこと①	はなしあうこと①について、じぶんのいけんをはっぴょうしてください。 ◆ほかのいけんはありませんか。 ◆しつもんはありませんか。
はなしあうこと①	◆さんせい、ほんたいいけんをいってください。わけもいってください。 ◆もういちど、みんなにきこえるようにはなしてください。 ◆となりのひととはなしあってください。 ◆せんせいにたずねてみます。 つぎに、②「 」についてはなしあいます。 じぶんのいけんをはっぴょうしてください。 (はなしあい①とおなじようにすすめましょう)
5きまったこと	きょう、きまったことを ノートきろくの()さんに、はっぴょうしてもらいます。()さん、おねがいします。
6ふりかえり	がっきゅうかいカードで、きょうのはなしあいのふりかえりをしましょう。
7せんせいはなし	せんせいはなしをききましょう。
8おわりのことは	これで、だい()かい、がっきゅうかいをおわります。
<div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; text-align: center;"> <p>がっきゅうかい をふいかえろう</p> </div> <div> <p>【よくできた◎ できた○ もうすこし△】</p> <p>☆じぶんのやくわりがしっかりできましたか ()</p> <p>☆ちからをあわせて、すすめることができましたか ()</p> </div> </div>	

【中学年用】

学級会のすすめ方

ぎだい	
ていあんの理由	
話し合いのめあて	
1はじめのこたば	これから、第（ ）回、学級会を始めます。 みんなで、学級の歌を歌いましょう。
2やくわりのしょうかい	やくわりをしょうかいします。司会の（ ）です。副司会の（ ）、黒板きろくの（ ）です。ノートきろくの（ ）です。よろしくおねがいします。 * しょうかいの時、自分のめあてもつたえましょう。
3ぎだいのたしかめ	今日のぎだいは『 』です。
4ていあん理由	ていあん理由を、ていあん者の（ ）さんに発表してもらいます。 （ ）さん、おねがいします。ありがとうございました。
5めあて	今日の話し合いのめあては「 ）」です。
6話し合い 柱① （ 分） 柱② （ 分）	では、話し合いを始めます。話し合うことは①「 ）」②「 ）」です。 はじめに、柱①について、話し合います。意見を発表してください。 ◆ほかに意見はありませんか ◆しつ問はありませんか。 ◆さんせい、はんたい意見を言ってください。わけも言ってください。 ◆もう一度、みんなに聞こえるように話してください。 ◆となりの人と話し合ってください ◆先生にたずねてみます。 次に柱②「 ）」について話し合います。 意見を発表してください。 * 柱①と同じようにすすめましょう
7きまったこと	今日の話し合いできまったことを、ノートきろくの（ ）さんに、発表してもらいます。（ ）さん、おねがいします。
8ふりかえり	今日の話し合いをふりかえって、学級会カードに書きましょう。
9感想の発表	思ったことや気づいたこと（がんばっていた友だちなど）を発表しましょう。
10 先生の話	先生の話聞きましよう。先生、お願いします。
11 おわりのこたば	これで、第（ ）回、学級会を終わります。
<p>よくできた◎ できた○ もうすこし△</p> <p>☆進んで話し合いのじゅんぴができましたか（ ）</p> <p>☆自分のやくわりがしっかりできましたか（ ）</p> <p>☆みんなで協力して、進めることができましたか（ ）</p>	

【高学年用】

学級会の進め方

議題	
提案理由	
話し合いのめあて	
1はじめの言葉	これから、第（ ）回、学級会を始めます。 みんなで、学級の歌を歌いましょう。
2役割の紹介	役割の紹介をします。司会の（ ）です。副司会の（ ）です。黒板記録の（ ）です。ノート記録の（ ）です。よろしくおねがいします。 * 紹介の時、自分のめあても伝えましょう。
3議題の確認	今日の議題は『 』です。
4提案理由の説明	提案理由を、提案者の（ ）さんに発表してもらいます。 （ ）さん、おねがいします。ありがとうございました。
5めあての確認	今日の話し合いのめあては「 ）」です。
6話し合い 柱① （ 分） 柱② （ 分）	では、話し合いを始めます。話し合うことは①「 ）」②「 ）」です。 はじめに、柱①について、話し合います。意見を発表してください。 ◆ほかに意見はありませんか ◆しつ問はありませんか。 ◆賛成、反対の意見を言ってください。理由も言ってください。 ◆話がそってしまったようです。今は〇〇についての話し合いです。 ◆一緒にしてもいい意見はありませんか。 ◆グループで相談しましょう。 次に柱②「 ）」について話し合います。 意見を発表してください。 * 柱①と同じように進めましょう
7決まったこと	今日の話し合いで決まったことを、ノートきろくの（ ）さんに、発表してもらいます。（ ）さん、おねがいします。
8ふりかえり	今日の話し合いをふりかえって、学級会カードに書きましょう。
9感想の発表	思ったことや気づいたこと（がんばっていた友だちなど）を発表しましょう。
10 先生の話	先生の話聞きましよう。先生、お願いします。
11 おわりの言葉	これで、第（ ）回、学級会を終わります。
<p>よくできた◎ できた○ もうすこし△</p> <p>☆進んで話し合いのじゅんぴができましたか（ ）</p> <p>☆自分のやくわりがしっかりできましたか（ ）</p> <p>☆みんなで協力して、進めることができましたか（ ）</p>	

学級会を
ふいかえろう

学級会を
ふいかえろう

エ 学級会ノート

【低学年用】

がっきゅうかい / ノート

がつ にち()ようび じかんめ

なまえ

ぎだい				
ていあんりゆう				
はなしあいのめあて				
しかいグループ	しかい	ふくしかい	こくばんきろく	ノートきろく
はなしあうこと①				
じぶんのいけん				
はなしあうこと②				
じぶんのいけん				
がっきゅうかいを ふいかえろう	【よくできた◎ できた○ もうすこし△】 ☆ともだちのいけんをききましたか () ☆すすんでいけんをいえましたか () ☆きまったことがわかりましたか ()			
	【かんそう】			

【中学年用】

学 級 会 / ノ ー ト

月 日()ようび 校時

名 前

議題				
提案理由				
話し合いのめあて				
司会グループ	司会	ふく司会	黒板きろく	ノートきろく
話し合うこと	自 分 の 意 見 ・ 理 由			
柱①				
柱②				
学級会を ふいかえろう	【よくできた◎ できた○ もうすこし△】 ☆進んで意見を言えましたか () ☆めあてを考えて、話し合うことができましたか () ☆これから何をしたらいいかわかりましたか ()			
	【感そう】			

【高学年用】

学級会 / ー ト

月 日 () 曜日 校時

名前 _____

議題				
提案理由				
話合いのめあて				
司会グループ	司会	副司会	黒板記録	ノート記録
話し合うこと	自分の意見・理由			
柱①				
柱②				
学級会を ふいかえろう	【よくできた◎ できた○ もうすこし△】			
	☆進んで意見を言えましたか () ☆友達や学級のことを考えて話し合えましたか () ☆めあてが達成できましたか ()			
【感想】				



今日、たくさんの意見を
発表しました。



よーし、みんなで決めた
ことを、実行するぞ…!

2 道 徳

(1) 道徳の時間を充実させるために



道徳の時間は、何をする時間ですか？
どうすれば、充実した時間になるのですか？

道徳の時間は、

学校の教科等の学習や、日々の生活や体験活動などで
行われる道徳教育と密接な関連を図りながら、計画的、
発展的な指導によって、これらを**補充、深化、統合し、**

道徳的価値の自覚を深め、
道徳的実践力を育成する 時間です。



充実した時間にするため、配慮することや工夫
したいことを一緒に考えてみましょう。

ア 道徳の時間の前に

(ア) 主体的な構えをつくりましょう。

道徳の時間を充実させるには、子どもたちが、自分の課題を解決しようとする主体的な構えをもって道徳の学習に臨むことが大切です。

そのためには、学級集団づくりや日々の暮らしの中で、よりよい生き方をしたいという前向きな姿勢を育てたり、自らの行為について課題を意識していくような働きかけをしたりすることが必要です。

(イ) 豊かな体験活動で、子どもたちの心を耕しましょう。

道徳教育は、道徳の時間だけで行われるものではありません。各教科や特別活動、総合的な学習の時間や日々の暮らしの中で適切な指導と道徳の時間の指導とが、十分な関連をもって機能して初めて、子どもたちの内面に根ざした道徳性が育成されます。

苦しい体験、成功した体験、仲間とともに励まし合ってやり遂げた体験、人に優しくしてもらった体験等の中で考えたことやその時の気持ちをしっかり体や心にとめておくような指導をすることが必要です。

イ 道徳の時間では

(ア) 道徳的価値の自覚を大切にした学習指導過程にしましょう。

道徳の時間では、子どもたち一人一人が道徳的価値についての自覚を深めることが大切です。道徳的価値の自覚には次の事柄を押さえていく必要があります。

- ・ 道徳的価値についての理解ができること
- ・ 自分とのかかわりで道徳的価値をとらえられること
- ・ 道徳的価値を自分なりに発展させていくことへの思いや課題が培われること

そのためには、指導過程の「導入」「展開」「終末」の各段階で子どもたちの意識を大切に考えることが必要です。

学習過程	活動のねらい	子どもたちの意識
導入	主題に対する興味や関心を深めて、学習への課題を持ち、意欲を高める。	「自分にも関係がありそうだ」 「興味がわいてきたぞ」 「本気で考えてみたくなった」
(前段) 展開	中心的な資料を通して、道徳的価値を理解する。	「こういうことって大切なんだなあ」 「こんな生き方があるのか」 「こういう考え方っていいなあ」 「いろんな考え方があるんだ」
(後段)	その道徳的価値を自分とのかかわりで見直し、道徳的価値の自覚を深める。	「自分はどうだろうか」 「自分はこんな考え方だ」 「こういう考え方は自分にはない考え方だ」 「自分にもこんないいところがあるぞ」
終末	話合いをまとめたり、道徳的価値に対する思いや考えを温めたりして、今後の発展につなぐ。	「こんな考え方もできるといいなあ」 「こんな生き方を自分もしてみたい」 「これからも自分のこんな考え方や生き方を大切にしていこう」



(イ) 価値の自覚を深めるために、様々な指導方法を工夫しましょう。

子どもたち一人一人が道徳的価値の自覚を深めるためには、様々な指導方法を工夫する必要があります。

◇ 中心資料を提示するときの工夫

子どもたちにどんな資料をどんな方法で提示するかはとても重要です。子どもたちの実態に即した効果的な資料を選ぶこと、そして、一度の提示で理解できるように、場面絵や紙芝居等を活用することも必要です。

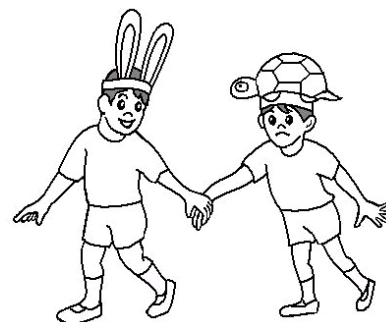
◇ 資料を通して価値を理解するときの発問の工夫

教師の発問は、子どもたちの思考や話し合いを深める決め手になります。特に、展開前段の発問は、道徳的価値の理解につながる発問です。中心発問、基本発問、補助発問などの発問構成が重要なポイントになります。

◇ 価値を深めるときの工夫

子どもたちが自分の考えをもったり、表現したり、考えを出し合ったり、深め合ったりするときの工夫の例です。

- ・ 主人公の行動を動作化し、主人公になりきって考える方法
- ・ 自分の考えを学習シートの吹き出しに書いてそれを発表する方法
- ・ 役になりきって演技をし、その演技をもとに話し合う方法
- ・ 座席の配置を工夫したり、討議形式を進めたり、グループやペアによる話し合いなど



◇ 価値に照らして自分自身を振り返るときの工夫

展開前段でとらえた価値を自分とのかかわりで考えるには、資料から離れて自分の行動を振り返ってみることが必要です。しかし、価値をしっかりと把握できても、突然自分のことを振り返るように言われて戸惑ってしまうことがあります。そのようなときには、価値に関わる体験活動の写真やヒントになる絵や作文が効果的なことがあります。

また、子どもたちの心の記録としての「心のノート」の活用は、道徳の時間と日々のくらしや体験活動をつなぐ上で、有効な方法です。そのためにも、普段から、「心のノート」に記録を残していく習慣をつけておくことが大切です。

◇ 終末での説話の工夫

教師や保護者、ときには資料の登場人物本人や、校長先生、地域の方々などのゲストティーチャーの説話は、子どもの心を大きく動かします。また、家族の手紙や声のメッセージ、映像なども効果があります。

ウ 道徳の時間の後に

(ア) 事後の指導を大切にしましょう。

道徳の時間が終わっても、子どもたちの意識は続いています。道徳の時間の終わりに、「こんな生き方をしてみたい」「これからも自分のこんな考え方や生き方を大切にしていこう」と考えた子どもたちは、道徳の時間が終わった後、新たな気持ちで自分の生活を変えていこうとします。

また、中には、実際の体験を通してとらえた価値を確かめる子どもがいるかもしれません。そうすると、道徳の時間が終わった後の事後指導は、さらに重要となってきます。

事後の指導を通して、「やっぱり、こんな気持ちをもつことは大切だったな」「こんな気持ちをもつと本当に〇〇できるんだな」などの気持ちをもてるように、教師は、子どもたちをしっかりと見つめ、声かけをしていくことが必要です。

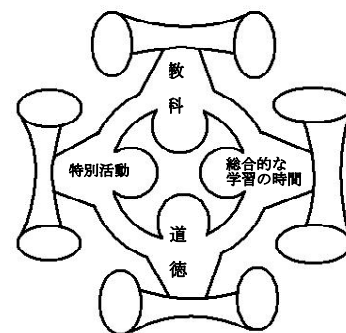
ただ、事後指導は、実践を目的にしているものではありません。あくまでも、道徳的価値の自覚を目的にしたものです。

エ その他

(ア) 他教科・領域との関連を図った取組が効果的です。

道徳性を養うためには、道徳の授業だけでなく、他教科・領域との関連した取組を行うことが重要です。

総合単元的な発想の基に、道徳の時間を複数時間に渡って位置付け、教科や特別活動、総合的な学習の時間などにおける道徳教育との関連を明確に位置付けながら一連の学習過程をまとめた指導は、子どもたちの道徳性を育成するという意味で大変効果的です。



(イ) 計画に基づいた指導をしましょう。

子どもたちの道徳性は、たった1時間の道徳の時間で育てられるものではなく、1年間の35時間の道徳の時間の積み上げと学校の全ての教育活動での道徳教育によって育成されます。

さらには、幼稚園教育での道徳性の芽生えをスタートに、小学校6年間と中学校の3年間の道徳教育の積み上げによって育てられるものです。したがって、思いつきの指導ではなく、学校の道徳教育全体計画や年間指導計画に基づいた意図的・計画的な指導が大切になります。



(ウ) 家庭・地域との連携を図りましょう。

道徳教育は、子どもたちの日常生活の全ての機会や場面で行われます。そのため、学校・家庭・地域社会がそれぞれの役割を果たし、同じ方向で子どもたちの道徳教育を進めていくことが大切です。

また、子どもたちの心を耕す体験には、学校よりも家庭や地域での体験の方が多いたちがあります。

学校・学級通信で道徳教育の取組を説明し、家庭や地域での体験を充実させたり、家庭で取材活動をしたり、家庭から励ましや賞賛の言葉がけをもらったりすることが、子どもたちの大きな力になります。



(2) 基本的な展開例

ア 低学年編

「がんばる心」 1 - (2) 勤勉・努力 (1年生) を例に説明しましょう。

(ア) 本時のねらい

自分がしなければならない勉強や仕事をしっかりとやるとうれしい気持ちになることに気づき、途中止めにしないで続けてがんばろうとする態度を養う。

(イ) 中心資料名 「がんばれポポ」(文溪堂 1年)

タンポポの綿毛は、風に吹かれて飛んでいく。甘えん坊のポポだけは、お母さんと別れるのが辛くわがままを言いはるが、やがて飛んで行く。岩の上に着いたポポは、暑かったり、寒かったりなどの辛い思いをするががんばった。やっとの思いで、広い野原に着いたポポは、春になり、きれいな花を咲かせた。

(ウ) 日々の暮らしや体験活動で心を耕します。

- ① 勉強のこと、運動のこと、家での手伝いのことなど、具体的なめあてを決めてある程度の期間取り組みます。このことを通して、めあてを決めて続けてがんばることの難しさや、できるようになった時のうれしさなどを味わうことができるようにします。

具体的な取組の例

<学習のこと>

- ・ 計算カード
- ・ 本読み
- ・ 漢字練習
- ・ 鍵盤ハーモニカ

<運動のこと>

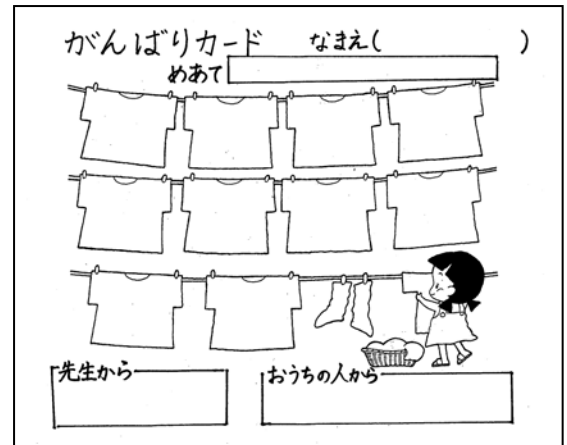
- ・ 水泳
- ・ 鉄棒
- ・ なわとび

<家庭でのこと>

- ・ 風呂洗い
- ・ 食器運び
- ・ 花の水やり
- ・ ピアノのけいこ

- ② がんばりカードなどを用意します。

カードに記入すると、自分の取組の様子がよく分かります。自分の行動や気持ちの変化に気付くこともできます。先生や保護者からのコメントが励みになります。カードはシールを貼ったり色を塗ったりできるよう工夫します。



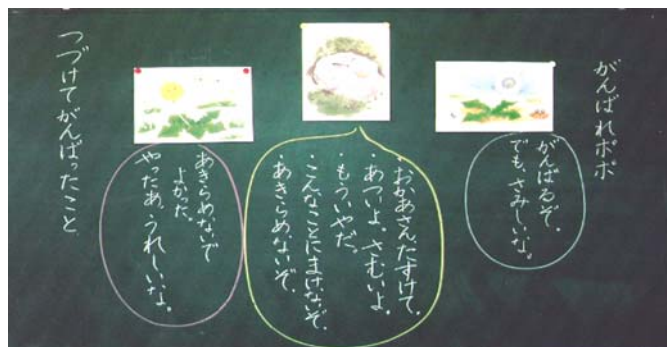
③ 家庭と連携をします。

学級通信などで学校での取組を保護者に伝え、本読みや計算カード、手伝いなどにかかわってもらいます。保護者にはカードにコメントを書くことを依頼し、家の人から誉めてもらったり、励ましてもらったりします。

(エ) 本時の展開

学習活動	主な発問と子どもの心の動き	教師の支援
1 紙芝居「がんばれポポ」を視聴して話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ○ ポポはがんばりやさんですね。どんなところががんばりやですか。 <ul style="list-style-type: none"> ・お母さんにさよならしたところ。 ・暑くても寒くてもがんばったところ。 ・野原で花を咲かせたところ。 ◎ 岩の上でポポはどんなことを考えていたのでしょうか。 <ul style="list-style-type: none"> ・お母さん助けて。 ・暑いし寒いし、もういやだ。 ・こんなことには、負けないぞ。 ・花を咲かせるまで諦めないぞ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資料は紙芝居にして提示することにより、場面の展開が分かりやすくする。 ・ 動作化しながら、辛くてもがんばろうとするポポの気持ちをとらえていくことができるようにする。
2 今までの自分の取組を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ○ めあてを決めてがんばっていることがありますか。続けてがんばったらどんな気持ちがしましたか。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 計算カードを続けてがんばって速くなった。 ・ 風呂洗いをがんばっている。お母さんがほめてくれるからうれしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ めあてを決めてがんばっていることを想起させた上で、その時の自分の行動や気持ちを振り返ることができるようにする。
3 家の人からの手紙を読む	<ul style="list-style-type: none"> ○ 家の人からの手紙を読みましょう。 <ul style="list-style-type: none"> ・ こんなことを書いてくれてる。 ・ うれしいな。 ・ がんばったかいがあったな。 ・ これからも続けよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事前に保護者に依頼して書いてもらう。

【板書例】



(オ) 事後の体験活動や日々の暮らしを充実させます。

引き続き、めあてに向かって取り組みながら、その中で見られた姿を認め励まします。途中で違うめあてに変更してもよいし、二つ三つと増やしていくのもよいでしょう。

それでは、展開後段の自分の生活を振り返る場面の手順や方法について、具体的に解説しましょう。

T みなさんは、めあてを決めて続けてがんばったことがあるかな。たとえば、毎日本読みをするとか計算カードをするとか。

C 毎日本読みをがんばっています。

C 計算カードも続けている。

C ある、ある。それなら、ある。ねえ、勉強のこと以外でもいい？

T いいよ。

C あのね、鉄棒の練習。

C 6時半にお母さんに言われなくても自分で起きること。

T すごいね。うちでのことだね。そんなのもいいよ。

C だったら、ぼくは風呂洗いの手伝い。

C わたしは、ピアノのけいこ。

T 勉強のこと、運動や遊びのこと、家での手伝いや習い事のこと。めあてを決めて続けてがんばったことが、みんな一つは見つかったかな？

C うん、見つかった。

・ ・ 見つからない児童には、普段の教師の観察や記録をもとに個別に助言する。・ ・

T ○○さんはプールで顔つけをがんばっていたよね。

次に、その時の自分の行動やそれを支える気持ちを振り返ります。

T みんなよく見つけられたね。でもね、毎日、毎日続けていると、たいぎだな、面倒だな、止めたいな、なんて思うことあるよね。

C ある、ある。

T たいぎだな、面倒だな、止めたいなと思ったとき、止めたの？続けたの？

C 止めない。

C 続けてがんばった。

T そう、偉いね。○○くんにもポポのような心があるんだね。

(数人に指名・・・中略)

T 続けてがんばったとき、どんな気持ちがした？

C いい気持ち。

C うれしかった。

T ポポと同じだね。○○さんは何がうれしかったの？

C 続けたから上手になって、それがうれしかった。

T へえー、そうなんだ。じゃあ、○○くんは？

C 途中で止めなくよかったと思った。

C お母さんに誉めてもらって、うれしかった。

C うれしくなって、もっと、もっとがんばろうと思った。

T みんなすごいねえ。

このようにして、一人一人が「がんばれポポ」でとらえたことをもとに、めあてを決めてがんばることについて、自分の行動や気持ちを振り返り、価値づけることは大切なことです。

イ 中学年編

「思いやりの心」 2-(2) 思いやり・親切 (4年生) を例に説明しましょう。

(ア) 本時のねらい

相手の気持ちをしっかりと考えると恥ずかしさを乗り越えられることに気づき、困っている人に進んで親切にしようとする態度を養う。

(イ) 中心資料名 「心の信号機」 (学研4年)

ぼくは、視覚に障害のある男の人に出会う。横断歩道を渡るのを手伝おうとするが、見知らぬ人に声をかける勇気がなく、どうしようかとためらう。しかし、男の人の困った様子を見て思い切って声をかけ、一緒に横断歩道を渡る。お礼を言われた後、男の人を見送ったぼくはほっとする

(ウ) 日々の暮らしや体験活動で心を耕します。

- ① 「心のノート」(P38)をもとに、三つの思いやりの心を見付けます。子どもは、思いやりの心を見付けようという課題追求の構えをもちます。

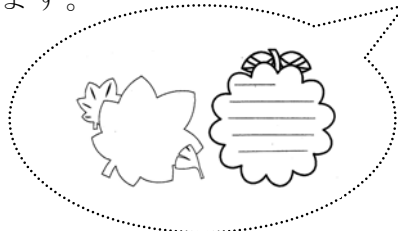


困っている人がいたら、
助けたいと思う心

悲しんでいる人がいたら、
気づかぬとする心

喜んでいられる人がいたら、
一緒に喜びたいと思う心

- ② 見付けた思いやりの心を葉っぱに書き、「思いやりの木」に貼ります。自分やクラスの友だちの思いやりの心を見付けることで心が耕されます。それと共に、だれが、いつ、どんな思いやりの心を発揮して、どんな気持ちになったかが記録として積み上げられていきます。

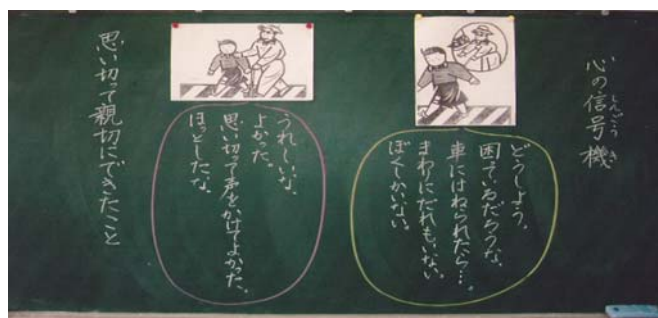


- ③ 体験活動として高齢者や障害のある人、幼い人との交流を位置付けます。このことを通して、ああしたい、こうしたいと思うけれども、初めて出会う人には恥ずかしくてなかなか声をかけられないことや、思い切って声をかけることができた時の気持ちを意識できるようにします。

(エ) 本時の展開

学習活動	主な発問と子どもの心の動き	教師の支援
1 親切にしようと思ってもできなかったことを紹介する。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 今までに親切にしようと思ってもできなかったことがありますか。 <ul style="list-style-type: none"> ・電車の中でお年寄りに席を譲れなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・親切にしようと思ってもできなかったことを想起させ、本時の価値の方向付けをする。
2 資料「心の信号機」を読んで「ぼく」の気持ちを中心に話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 足がゆっくりになった時「ぼく」はどんなことを考えていたのでしょうか。 <ul style="list-style-type: none"> ・声をかけようかな、でも恥ずかしい。 ・他の誰かが助けてあげないかな。 ◎ 「ぼく」はどんなことを思って声をかけたのでしょうか。 <ul style="list-style-type: none"> ・困っているだろうな。 ・車にはねられたら大変だ。 ・周りに誰もいない。ぼくしかいない。 ○ 一緒に横断歩道を渡った後、「ぼく」はどんな気持ちになりましたか。 <ul style="list-style-type: none"> ・うれしい。 ・思い切って声をかけてよかった。 ・ほっとした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料は教師が読み聞かせる。 ・男の人が視覚障害者であることをおさえておく。 ・恥ずかしいという気持ちや人を頼りにする気持ちがあったことに気付かせる。 <div style="border: 2px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・役割演技をすることにより、思い切って声をかけた「ぼく」の気持ちをしっかりと考えることができるようにしする。 </div>
3 思い切って親切にできたことを振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 今までに、迷ったけど思い切って親切にしたことはありませんか。 <ul style="list-style-type: none"> ・思い切って声をかけたことがある。 ・声をかけて荷物を持ってあげたことがある。 ・交流会で車いすを押してあげた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「思いやりの木」や日記の内容、教師の観察などをもとに振り返りやすくする。
4 ビデオレターを視聴する。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 交流会で会った〇〇さんからビデオレターが届いていますよ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ビデオレターを視聴することにより進んで親切にしようとする意欲を高める。

【板書例】



(オ) 事後の体験活動や日々の暮らしを充実させます。

本時でとらえたことを生かすことができるようにします。生かす場は一つに絞らず複数の方がよいでしょう。生かす姿が見られたら、しっかり認め、励まします。

それでは、役割演技の具体的な手順や方法を解説しましょう。

教室の前に横断歩道を用意し、次のようなセリフを黒板に貼ります。みんな共通です。

C あのう、向こうへ渡りたいんでしょう。お手伝いしましょうか。

T ありがとうございます。お願いします。

C どうすればいいですか。

T 私の前に立って、あなたのひじを持たせてください。それで前に進んでください。

C こうですね。はい、分かりました。

横断歩道を渡り終えてから

T 1 どうもありがとう。私は目が不自由だってことがよく分かったね。

C だって、白い杖をもっていたから。

C 信号を3回も待っていたから。

C サングラスをかけていたから。

C 車の音に耳を傾けていた様子だったから。

ここは反応によって2通りに分かります。

T 2 知らない人に声をかけるのは、恥ずかしくなかったかい。

C いいえ。恥ずかしくありません。

T でも、すぐには声をかけなかったよね。

C どうしようか迷ってたんです。

C だれか他の人が助けてくれるから、ぼくが助けなくてもいいかなって。

C 何と言えればいいか分からなかったし。

C おせっかいかなという気持ちもあったし。

C はい、とても恥ずかしかったです。

T 緊張したかい。

C 胸がドキドキしました。

C 手に汗が出ました。

C 怖い人かも知れないし。

T 人に任せてもよかったんじゃない。

C 周りにだれもいなくて。

T 3 じゃあ、なぜ声をかけてくれたんだい。

C 他の人を待ってられない、ぼくが声をかけないといけないと思って。

C 音の出る信号機じゃないし、車にはねられたら大変だから。

C 交通事故になると分かっていたら放っておけなくて。

C ずっと渡れなかったら辛いだらうと思って。

C 急ぎの用があって、渡れないとそれに遅れるかなと心配になったから。

C 渡りたいけど渡れなくて、とても困っている様子だったから。

C きっと助けてほしいけど、だれもないし、知らない人には声をかけにくいし。

T 4 そう、そこまで考えてくれたのかい。今日は親切な小学生に出会えてうれしかったよ。どうもありがとう。

見ていた他の児童には

T ぼくのどんな気持ちが伝わってきましたか？

C 優しい気持ち。

C 真剣な気持ち。

C 男の人がどうしてほしいのか一生懸命考えていることが伝わる。

役割演技をした児童には

T 今どんな気持ちですか？

C 緊張したけど、今は、すっきりした気分。

C よかった。ほっとした。

このようにして、思い切って声をかけたぼくの気持ちを深く探っていきます。

ウ 高学年編

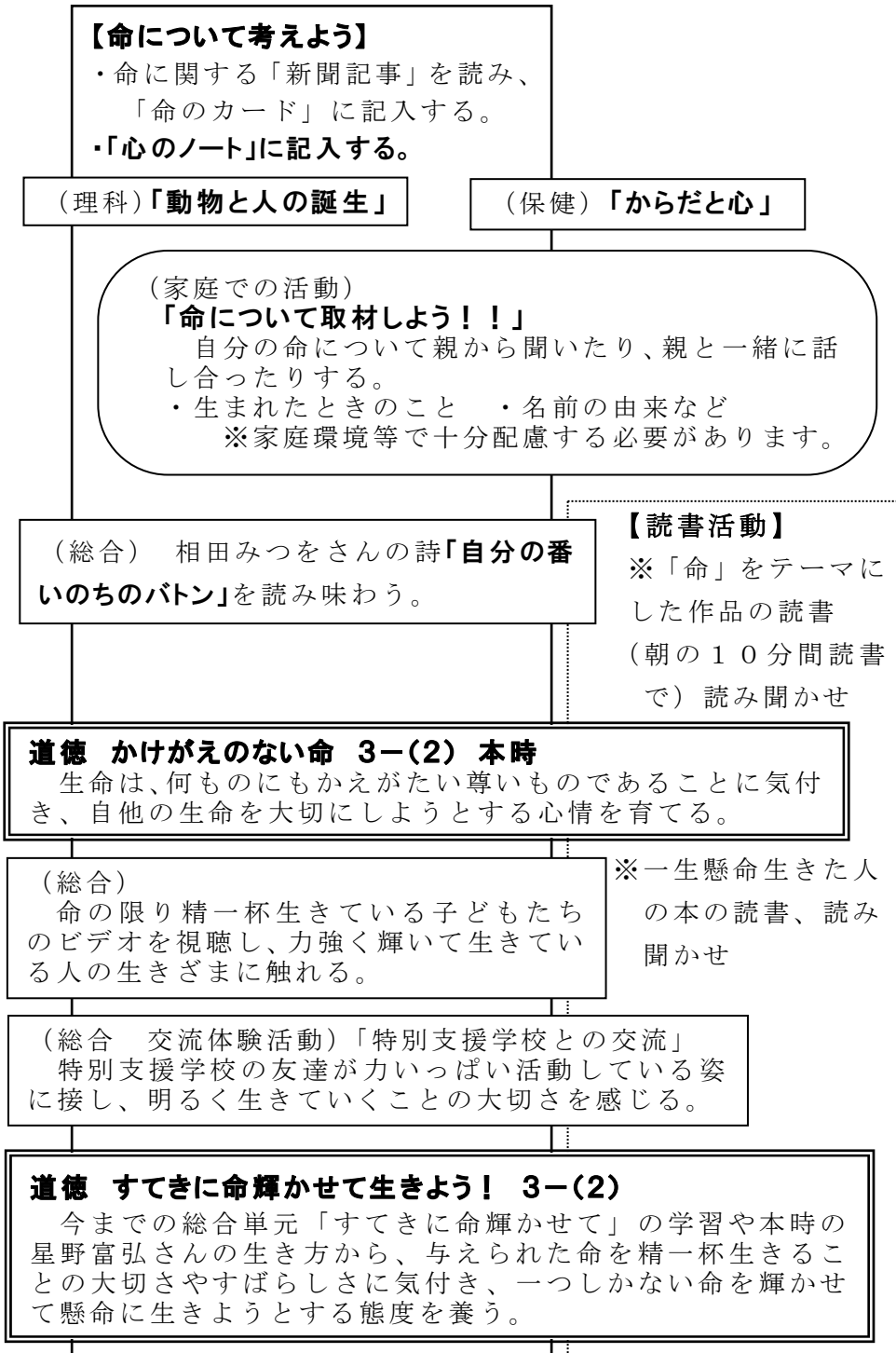
「命を大切にする授業」3-(2) 生命尊重 (5年) を例に説明しましょう。

(ア) 総合単元名 すてきに命輝かせて

(イ) 単元のねらい

理科、体育(保健)、総合的な学習の時間などの学習や家庭での「命についての取材活動」、交流体験活動、道徳の時間の学習等を通して、生命は何ものにもかえがたい尊いものであることに気付き、自他の生命を大切にしていこうとする態度や自他の生命を大切にしながら一生懸命に生きようとする態度を養う。

(ウ) 総合単元構想図



【児童の意識】

- ・命を粗末にしているなあ。
- ・生命が誕生するって、すごいことなんだな。ぼくが今生きていることもすごいことなんだ。
- ・ぼくが生まれたとき、家族のみんなが喜んでくれたんだ。
- ・ぼくの名前には、こんな願いが込められていたんだな。
- ・ぼくの命は、お父さん・お母さんから受け継いだとても大切なものなんだ。
- ・まわりの人の命も自分の命と同じように大切にしないといけないんだ。
- ・夢や希望をもって精一杯生きる人は、すばらしいな。
- ・特別支援学校の友だちは、障害に負けずに一生懸命に生きていてすごいな。
- ・命を大切にすることは、与えられた命を精一杯生きていくことなんだ。ぼくも一日一日を精一杯生きていこう!

(エ) 本時のねらい

生命は、何ものにもかえがたい尊いものであることに気付き、自他の生命を大切にしようとする心情を育てる。

(オ) 中心資料名 「猛火の中で」 (文部省資料他)

関東大震災の猛火の中で、主人公である小島龍太郎が、自分の命の危険をかえりみず、死力を尽くして他の多くの人々の命を救った。

(カ) 日々の暮らしや体験活動で心を耕します。

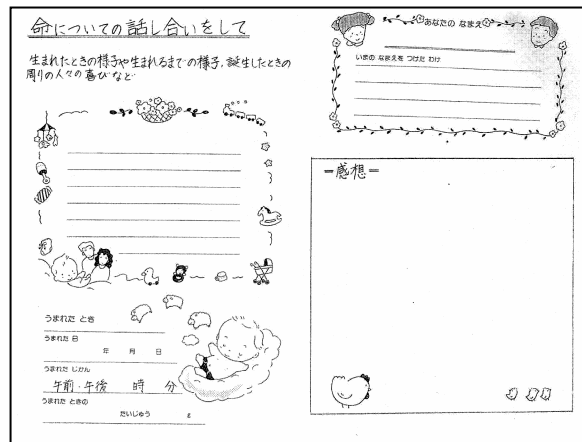
- ① 理科「動物と人の誕生」や保健「からだと心」の学習では、生命誕生の仕組みを知り、生命誕生の神秘さや生命のかけがえのなさを感じ取るようにします。

家庭での活動「生命についての取材活動」では、自分が生まれたときの様子、名前の由来、へその緒を見ながらへその緒で母親とつながっていたこと等を親子で話し合います。そのことで、自分の命は自分だけのものではないことを知り、命を大切に生きようという意識をもつようにします。

総合的な学習の時間の学習の中で、相田みつをさんの「自分の番のちのバトン」の詩を読み味わうことで、命は脈々と受け継がれているものであり、かけがえのない大切なものであるということを感じ取るようにします。

以上の活動を通して、自分の生命を大切に生きていこうとする構えをもつようにします。

【「生命についての取材活動」のワークシート】



- ② 日々の暮らしの中で感じたことを「心のノート」(P 66、P 67)に記録していきます。また、生命に関する新聞記事を集め、感想を「命のカード」に記入したり、命をテーマにした作品を読んだりします。

これらの活動を通して、命に関する意識付けを図るようにします。

(キ) 本時の展開

学習活動	主な発問と子どもの心の動き	教師の支援
1 かけがえのない命を大切にしなかったことについて話し合う。	○ 今までに、命の大切さを忘れてしまったような行動はありませんでしたか。 ・狭い道から急に飛び出した。	・日常生活の中で、かけがえのない命を大切にしなかった経験を想起する

<p>2 資料『猛火の中で』を読んで話し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ぼくの不注意から大けがをしたことがある。 <p>○ どんなどころが心に残りましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族のことを心配しながら消火活動をしているところ。 ・とても疲れているのに、たくさんの人々を救ったところ。 <p>◎ 疲れて自分も船に逃げようとしたとき、また、「助けて。」と叫ぶ声を聞いた龍太郎はどんなことを思ったでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・死にたくない。 ・助けたいけど、もうこれ以上は無理だ。 ・苦しんでいる人を放っておけない。 	<p>ことで、本時で扱う価値への方向付けを図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人一人が心に強く感じたことを出し合うことで、中心場面へと導く。 ・自分も危険な状況で、叫びを聞いた龍太郎の心の葛藤を深く考えるようにする。 <p>・全体での話し合い→グループやペアでの話し合い→全体での話し合いというように、話し合いの方法を工夫し、考えを深めていくようにする。</p>
<p>3 生命の大切さについて今までの自分を振り返る。</p>	<p>○ 今まで命が何よりも大切なものだと感じたことはありませんか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交通事故にあったとき・・・ ・病気になったとき・・・ 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前の実態把握を生かした意図的指名をする。
<p>4 『まけるなしんちゃん』の本の一節を聞く。</p>	<p>○ 『まけるなしんちゃん』という本の一節を紹介します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・阪神・淡路大震災に遭遇した時のことについて書いた本の一節を紹介し、価値を印象付ける。

【板書例】



(ク) 事後の体験活動や日々の暮らしを充実させます。

- ① 総合的な学習の時間の中で障害のある児童との交流体験を行います。また、日々の暮らしの中で、一生懸命に生きている人の本の読み聞かせを行います。
これらのことを通して、障害があっても一生懸命生きている姿に触れ、命を精一杯生きることのすばらしさを感じ取ります。
- ② さらに、道徳の時間を適切に位置付けることで、与えられた生命を精一杯、力強く生きていこうとする心情まで高めるようにします。
- ③ また、事後の暮らしの中で、生命を大切に、一生懸命に生きていこうとする姿が見られたときは、しっかりと励ましていくようにします。

それでは、中心場面の展開について解説します。

T 疲れて自分も船に逃げようとしたとき、また、「助けて。」と叫ぶ声を聞いた龍太郎は、どんなことを思ったでしょう。

★ 中心発問後、全体での話し合いを行います。

【赤】 助けたいけど、自分の命を守る】

C 死にたくない。

C へとへとだし、もうこれ以上は助けられない。

C これだけ助けたんだ。もういいだろう。

【黄】 相手の命も救う】

C 目の前でおぼれている人を放ってはおけない。

C 自分にできるだけ頑張ってみよう。

C 命は誰にとっても一つしかない大切なもの。

C 他の人の命も自分の命と同じように大切だ。

全体の話合いの中で
出た意見を大きく二つ
に分けて板書します。

T 自分の気持ちで一番強いのは、赤と黄のどちらの考えですか。

★ グループやペアによる話し合いを行い、より考えを深めます。ここでは、自分の異なる考えの児童と話し合いを行いましたが、方法はいろいろ考えられます。

★ 意思決定させる方法として、本時では、赤と黄の色円錐を使用しました。また、話し合いの時も、色円錐を持って参加することで、自分の立場を相手に知らせることができます。

T 友だちと話し合ってみてどうでしたか？

★ 再び、全体での話し合いを行います。

全体での話し合いの中で、それぞれの立場の児童に以下のような揺さぶりの発問を投げかけ、「生命は何ものにもかえがたい尊いものだ。」というねらいに迫っていくようにします。

【赤】 助けたいけど、自分の命を守る】

という児童には

T ほっておいたら、おぼれている人は死んでしまうよ。それでもいい？

T 少しでも、力が残っているのなら、助けたらどうかな・・・？

【黄】 相手の命も救う】

という児童には

T おぼれている人を助けていたら、自分は死ぬかも知れないよ。

T なぜ、龍太郎は疲れていたのに、他の人の命を助けたんだろう？

C 死にたくないという気持ちもあるけど、こんな場面で、苦しんでいる人たちをほっておけなかったと思う。

C 龍太郎にとっては、「ただ目の前の人たちを救わなければ。」という一心で助けたんだと思う。

C 目の前で人々が死んでいくのを人間として、黙って見ておくことはできない。

T 「命を大切にする」って、どういうこと？

C 今まで、命について勉強してきたけど、命はだれにとっても一つしかない大切なもの。他の人の命も、自分の命と同じように大切にすることだと思う。

C 「命を大切にする」って、どの命も大切に、与えられた命として一生懸命生きることだと思う。

Ⅲ 中学校編

1 学級活動（話し合い）

（1）話し合いの意義

話し合いが充実すると、次のような生徒を育むことにつながります。

- ① 自分の意見を分かりやすく述べたり、課題意識をもって他の人の意見を聞いたりする能力を身に付けること。
- ② 自分の主張を押しつけるだけでなく、それぞれの主張を生かすことのできる考え方や立場を見付け出す必要があることに気付き、集団全体の立場に立って考え、力を尽くそうとする態度を育てる。
- ③ 集団に対する所属感や連帯感を高め、自発的・自治的な集団の運営の仕方や社会性を身に付けること。
- ④ 自他の尊重や共に生きることの喜びを実感したり、社会生活上のルールや責任を果たすことの大切さに気付いたりすること。

話し合い
(伝え合う力の育成)



互いの思いや願いの共有
(互いに尊重し合い望ましい人間関係を構築)



集団としてのまとまりや意識の高まり
(集団への貢献意欲の向上)



集団（学級等）が変わる
(支え合う集団)

（2）話し合いのポイント

話し合いを大切にする雰囲気をつくるためには、日頃から一人一人の意見を受け入れることができる集団づくりに心がけるとが重要です。

- ① 学級の一員としての所属意識を持たせましょう。
- ② どんな発言に対しても、冷やかしたり否定的な気持ちをもつことなく話を聞こうとする態度を身に付けさせましょう。
- ③ 課題意識を持ち、自分の意見を言う態度を育てましょう。
- ④ 自分の意見に責任をもたせましょう。

(3) 話し合いの実際

ア 議題収集の手だて

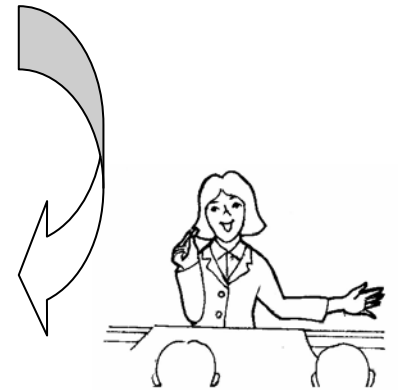
- 話し合いをするときの議題設定について
生徒に議題を見付けさせるだけでなく、教師が事前に次のような場面から議題を見付けておくことも必要です。

(ア) 議題発見の場面

- ・ 朝の会や帰りの会
- ・ 学級日誌や班ノート
- ・ 生活記録や個人ノート
- ・ 教育相談やアンケート
- ・ 学校行事や生徒会活動への取組 等から

(イ) 議題の例

- ・ 学年はじめの人間関係づくりについて
- ・ 学級目標について
- ・ 学級の諸活動について
- ・ 学校生活について
- ・ 行事の取組について
- ・ 行事や生活の振り返りについて



イ 話し合いの進め方

(ア) 話し合いの流れ(例)

- ① 開会の言葉
「これから()についての学級会を始めます。」
- ② 役割分担の確認
司会:() 板書係:() 記録係:()
- ③ 議題の確認
「今日の議題は()です。」
- ④ 提案理由の説明
「()という理由で、この議題を提案します。」
「提案理由について、質問はありませんか。」
- ⑤ 話し合い
「では、話し合いに入ります。まず△△について話し合うことにします。時間は〇〇分間です。意見のある人は挙手をして発言してください。」
{ ※ 意見の出ないときは、班などの小集団で話し合い、
班長がまとめて発言するなどの工夫をする。 }
- ⑥ 議決内容の確認
「今日の話し合いの結果、()ということになりました。」
- ⑦ 先生の話
「先生お願いします。」
- ⑧ 閉会の言葉
「これで学級会を終わります。」



(イ) 生徒に理解させておきたいこと

① 参加者の心得

- ・ 事前に知らされた話し合う内容について、よく考え、自分の意見をもって参加する。
- ・ 友だちの意見をよく聞き、自分の意見と比べながら、次の自分の意見を考える。
- ・ 感情的にならず、冷静に自分の意見をまとめる。
- ・ 自分の発言が話合いのポイントから外れないように気を付ける。



② 発言の仕方

- ・ 司会者がいる場合は、司会者の許可を得てから発言する。
- ・ 自分の立場(賛成・反対など)を、きちんとまとめてから発言等をする。
- ・ 自分が言いたいことを、クラスみんなに分かるように発言する。
- ・ 例を用いたり、事実を挙げたりして分かりやすく説明する。
- ・ 友だちの発言で分からないことは質問する。

③ 司会者の心得

- ・ クラスのみんなが発言できるような雰囲気になるようにする。
- ・ 発言する生徒が偏ったり、内容が一方的になったりしないように気を付ける。
- ・ 参加者に、話し合う時間、ポイント、順序を理解してもらいながら、話合いの方向がそれたら本題に戻す。
- ・ 大切な意見は、整理して繰り返す。分かりにくい意見については、司会者も質問してよい。
- ・ できるだけ自分の意見は発言しないようにする。どうしてもという場合は、最後に述べる。
- ・ 採決が必要な話合いの場合は採決には参加しないが、賛否が同数の場合は、司会者が判断をする。
- ・ 決まったことなどを参加している人たちが理解しやすいように整理して伝える。その後で、みんなで話し合ったことを大切に、実行することを確認する。

(ウ) 司会の進め方〔〇〇研修のスローガンについて学級で話し合い〕(例)

司会 「これから〇〇研修についての話し合いをします。今日初めて学活の司会をするので、慣れなくてうまく進められない時があるかもしれませんが、皆さんの協力をお願いしたいと思います。今日は〇〇研修のスローガンについてクラスで話し合いをします。」

司会 「昨日、〇〇研修の実行委員会を開きました。そこで、〇〇研修のスローガンの原案を実行委員会で考えたので、それを基に班で検討してください。」

司会 「では机を合わせて班を作ってください。」

司会 「まず、実行委員会から原案について説明してもらいます。」

(実行委員会からの説明)

「実行委員会では、この研修の目的である、『仲間作り』、『ルールを守る自主的な態度を身に付ける』、『発表の仕方、聞き方を身につける』を基に話し合いを進めました。実行委員会では二つの原案を考えました。」

(一人が『 』の目的を黒板に書く)

(実行委員会からの説明)

「一つ目は『自主的活動、豊かな心で進んで活動』で、これは進んで活動できることを願って考えました。二つ目は『学ぼう、楽しもう、深めようみんなの絆』で、今以上に仲間作りが進むことを願って考えました。」

司会 「それではこれから班で、原案のうちどちらがよいか、また修正した方がよいと思う言葉などについて話し合ってもらいます。後で班長に発表してもらいますので、しっかり話し合いをしてください。時間は〇〇分間です。」

(班で話し合う)

(〇〇分間経ったら)



司会 「それでは話し合いを止めてください。それでは各班から話し合った結果を発表してもらいます。ではまず1班お願いします。(1班発表)、ありがとうございました。」

(出てきた修正案などを黒板に書く 1班 〇〇〇などと)

司会 「続いて2班お願いします。」
(2班発表)、「ありがとうございました。」、(同じようにして6班まで発表。)

(各班から出てきた内容についてクラス全体で話し合う。)

司会 「各班からの意見が出そろいました。○組としての意見をまとめたいと思います。各班から出てきた意見に対して、質問等はありませんか。」

[意見の内容によってまとめ方が違います。]

※各班からの意見が分かれず、一つの意見の場合

司会 「こちらの意見の賛成が多いようですが、何か他に意見はありませんか？」

(意見がないようなら)

司会 「○組としては、○○○○というスローガンをクラスの意見として出したいのですが、よろしいでしょうか？賛成の方は手を挙げてください。」

(ほとんどの人の手が挙がったら)

司会 「ありがとうございました。賛成多数でこれをクラスの意見としたいと思います。ご協力ありがとうございました。これでクラスでの話し合いを終わります。」

※ 少数意見の生徒に同意を求めたり、挙手しなかった生徒の思いを聞いたりするとは大切です。

※各班からの意見に二つに分かれている場合

司会 「意見が二つに分かれているのですが、意見はありませんか？それぞれ班で話し合って出た理由などを発表してください。」

(意見を発表し合い、学級での話し合い。)

(ある程度まとまってきたら)

司会 「○組としては、○○○○というスローガンをクラスの意見として出したいのですが、よろしいでしょうか？賛成の方は手を挙げてください。」

(ほとんどの人の手が挙がったら)

司会 「ありがとうございました。賛成多数でこれをクラスの意見としたいと思います。ご協力ありがとうございました。これでクラスでの話し合いを終わります。」

[場合によっては、もう一度班での話し合いの後、意見を発表し合うこともあります。]

(4) 話し合いを充実させるために

活発に話し合うことだけが目的ではありません。支え合い高め合う集団は居心地がよいものであり、こうした集団づくりには話し合いが欠かせないことを生徒自身が自覚することが大切です。

生徒に話し合いのよさに気付かせるため、次のようなことに留意して指導に当たりたいものです。



○ 日頃から話し合いを機能させる。

朝の会や帰りの会、あるいは教科や道徳の授業などで、日常的に自他の思いや考えを交流する場を意図的に設けることが大切です。その中で、安心して話し合うことができる雰囲気が醸成されるとともに、話し合うことの良さを生徒自身が身をもって学ぶことができます。輪番制で司会を経験させるなど、話し合いを自分のこととしてとらえられるようにしておくことも大切です。

○ 反対意見や少数意見を大切にする。

多数決は話し合いを決する有効な手続きですが、採決の前に反対する生徒に理由をしっかりと述べさせたり、採決の後に少数意見の生徒に思いを述べさせてから同意を再度求めたりするなど、日頃から参加者一人一人が大切にされている中で話し合いを進めることが大切です。

○ 話し合って決めたことに責任をもたせる。

いくらよい話し合いができて、決めたことを実行しなくては意味がありません。実行できない場合には、「みんなで話し合って決めたことだよな。」と確認したり、実行できない理由を話し合って決めたことを修正したりすることで、決めたことに対する責任を自覚させることが大切です。

(5) 資料

ア 学級の雰囲気・人間関係づくり

～資料① (今週を振り返って)～

月 日 () () 班

☆ クラスでよかったこと

☆ クラスでよくなかったこと

☆ クラスでのニュース、出来事

☆ 今週頑張っていた人 (理由も書こう) →たくさん見つけられるといいね!!

☆ 今週のMVP! (理由も)

○ 目的

大きな行事だけでなく、普段の生活について振り返ることで、身近な題材での話合いの場面を増やすことができます。

このワークシートは、帰りの会などで、班での話合いを経験させるものです。これを行うことによって、班の人や級友への関心も、クラスの意識を高めることができます。

○ ワークシートを使った展開例

- ① 5分間の班での話合いを行う。
- ② 班長が話合いの司会を行う。
- ③ 副班長または、発表者がシートに記録を行う。
- ④ 班の意見を班の代表が発表する。(毎週発表する人を変えてもよい)

○ 発展的な活用 (クラスの実態に合わせた活用を)

☆ 話合いや発表だけで終わるのではなく、生徒へのフィードバックがあれば、より効果的です。

- ① 話合いシートを掲示する。
- ② 学級通信などで、問題点やMVPについて取り上げる。
- ③ 多くの班からあがっていた問題点などは、班長会や学級会で取り上げる。



イ 話し合いの進め方

～資料②（班での話し合いの進め方）～

（ ）年（ ）組（ ）番 氏名（ ）

- 今回は、話し合いの進め方について学習しよう。
- 話し合いは、意見が出なければ始まりません。話し合いに参加したみんなが発表し、みんなで考えるものでなければなりません。そのためには、次のことを大切に考えましょう。
 - ① 積極的に自分の意見を発言する。
 - ② どんな意見も、笑ったり、けなしたりしない。
 - ③ かわるがわる話す。
 - ④ 人の話を最後まで聞く。
- 今回は、まず意見をしっかり出す練習をしましょう。下の題について考えながら、話し合いの練習をします。

議題 「来月行われる学年レクリエーション大会は、このクラスが主催します。先月の（口）組に負けない学年全体の団結力が高まる企画を考えてください。」

① 上の題について、まず自分の意見をまとめてみましょう。

企画名、理由、ルールの順で。いくつか出してみよう。		
企画名	理由	ルール

② 各班の中で発表してみます。発表の仕方は、「私が（僕が）考えた企画は〇〇です。その理由は、・・・だからで、・・・のように使うとよいと思ったからです」とします。今回は、次の段階で、班での意見をまとめてみますので、それぞれの班員の意見をしっかり聞いてみましょう。また、今回はメモを取りながら聞いてみましょう。

名前	企画名	理由	ルール	メモ

③ では、出された意見の検討に入ります。それぞれに出された意見について、あなたが気付いたこと（疑問や問題点、意見）を上の方の右はしにメモしてみましょう。ここでしっかり検討しなければ、意見をまとめたことにはなりません。

★ 意見はあくまで意見です。意見について問題点を言われても、あなた自身が否定されているわけではありません。安心してどんどん意見を言いましょ！★

④ 班員の質問や意見を、自由に発表してみましょう（必ず発言をすること！）質問された人は、質問に対して答えましょう。

⑤ それでは、これから、班の意見として、まとめてみましょう。それぞれの意見を、すでに聞いていますから、一番よいと思える企画を決めてください。その時、意見は「私は〇〇さんの意見の・・・がよいと思います。理由は・・・だからです。」の形で話してみましょう。そのあとは自由に発言し、しっかり班の意見をまとめてください。話の内容はメモを取りながらまとめると、まとめた意見について発表する時に役立ちます。

メモ

班で決まった企画名	理由	ルール

～資料4（学級目標を考えよう！）～

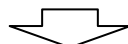
新しいクラスがスタートしてもうすぐ（ ）週間。そろそろクラスに慣れてきた頃ですね。

さて、新しいクラスの様子がいくらか分かったところで、このクラスの学級目標をつくりたいと思います。いろいろな人が生活を共にするこのクラスをみんなが過ごしやすいものにするためには、どんな目標がよいでしょうか。

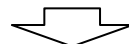
<p style="text-align: center;">【担任の願い】</p> <p>○お互いがお互いを思いやれるクラスであってほしい。</p> <p>○みんなで団結して盛り上がるクラスであってほしい。</p> <p>○けじめのあるクラスであってほしい。</p>	<p style="text-align: center;">【保護者の願い】</p> <p>○</p> <p>○</p>
--	---



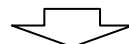
<p>昨年のクラスで良かったこと</p> <p>○</p> <p>○</p>	<p>昨年のクラスで改善したいこと</p> <p>○</p> <p>○</p>	<p>このクラスに対するあなたの願い</p> <p>○</p> <p>○</p>
--	---	--



<p style="text-align: center;">【私の考えた学級目標】</p>	<p style="text-align: center;">【班の人の考えた学級目標】</p>
--	--



<p style="text-align: center;">【私たちの班で話し合った学級目標】</p>	<p style="text-align: center;">【他の班の人の考えた学級目標】</p>
--	--



<p style="text-align: center;">【私たちの学級目標】</p>

- ねらい

年度初めの学級目標づくりでの話し合いです。いろいろな人の思いを受け止め、自分の思いをしっかりと伝えることが大切です。クラスで同じ願いに向かって取り組むための大切な目標づくりです。
- ワークシートを使った展開例

クラス替えをしたばかりなので、なかなか話しやすいという雰囲気にはなりにくいかもしれませんが、学級開き後のレクリエーションなどで、いくらかその雰囲気を作っておくことが大切です。

 - ① 前日に、このクラスに対する保護者の願いなどを聞かせる。
 - ② 昨年のクラスの振り返りや自分の思いを書く欄には、箇条書きでよいので、思いついたことをまず書き出すよう指示する。
 - ③ 書き出したものに、優先順位を付ける。
 - ④ 班での話し合いで、お互いの思いを共有する。その話し合いの中で、班としての意見をまとめる。
 - ⑤ 班での話し合いの後、それぞれの班の意見を発表させる。学級目標とそれに込められた願いや提案理由なども発表する。
 - ⑥ 各班の発表の後、そのまま学級全体で話し合いを行う。場合によっては、もう一度班での話し合い、その後学級全体での話し合いを行う。

○ 発展的な活用（クラスの実態に合わせた活用を）

☆ 生徒へのフィードバックの材料とする。

- ① 学級目標を掲示する。
- ② 学級通信などに、保護者の願いや各班から出た意見なども取り上げる。
- ③ 学期に一度は、学級目標への振り返りを行う。その時にも、個人→班→学級の順で振り返りについての話し合いができるようにする。



うまく話し合いを進めるために

(1) 集める

- ① 議題（テーマ）について自分で考えてみる。
- ② 他の人の意見をよく聞く。
- ③ 他の人が言った意見がよく似ていても、そのまま繰り返さないで自分の言葉で意見を言う。
- ④ 多くの人と考えが違ってても自分の意見を言う。
- ⑤ どんな考えが出てても、冷やかしたり、非難したり、批判したりしない。

(2) 確かめる

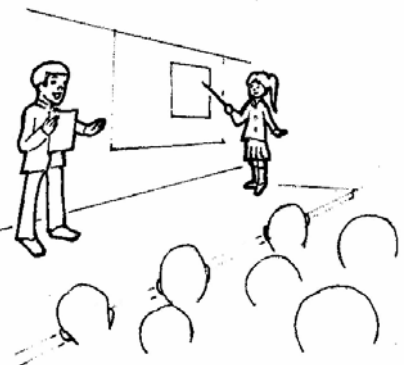
- ① 議題（テーマ）に沿った意見であるかどうかを確認する。
- ② 疑問に思うことは、互いに質問し、説明し合う。
- ③ 質問に対して聞いている人の立場に立って分かりやすく話す。

(3) まとめる

- ① それぞれの意見のどこが違っているか、共通しているところはどこかを考え、分類整理する。
- ② 他の人の考えに対して、自分は賛成か反対か立場をはっきりさせる。
- ③ 理由や根拠を明らかにして、自分の考えを述べるようにする。
- ④ 他の人の話し方やまとめ方など良いところはしっかりと認め、自分の中に取り入れる。

このシートは、話し合い活動の時だけでなく、朝や帰りの会、ふだんの教科や道徳の授業にも役に立ちます。

このシートに、自分が気付いた大切なことをどんどん書き加えて、より良い話し合いができるようにしてみよう。



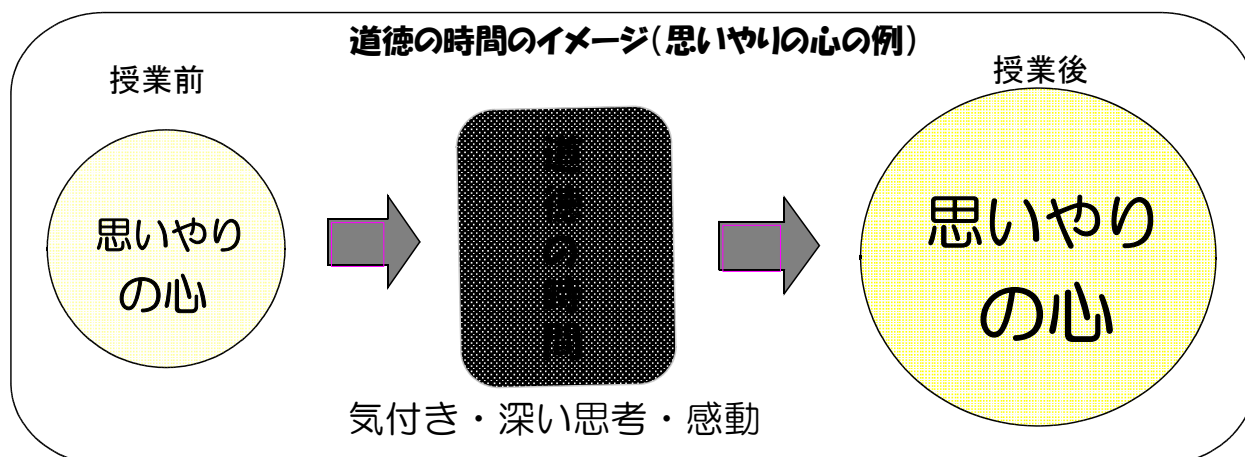
2 道 徳

(1) 魅力ある道徳の時間にするために

ア 「道徳の時間」とは

道徳の時間は、道徳教育のかなめの時間であり、学校の教科等の学習や、日々の生活や体験活動などで行われる道徳教育と密接な関連を図りながら、計画的、発展的な指導によって、これらを補充、深化、統合し、

「人間としての生き方、在り方についての自覚を深め、道徳的実践力を育成する」時間です。道徳的実践力とは「人間としてよりよく生きていく力」のことで、道徳的心情、道徳的判断力、道徳的実践意欲や態度の三つを内包したもののことです。



- 生徒たちが授業前にすでに持っている「思いやりの心」が、道徳の時間や他領域と関連付けた「総合単元学習」を通して、さらに大きく拡充され、高められる。

イ 心に響く資料の選定

道徳の時間の資料は、道徳的価値の自覚を深めていくための手がかりとして極めて大きな意味をもっており、授業をする教師自身の心に響いてこそよい資料です。

- ① 生徒たちの感性に訴え、感動を伴い、強いインパクトを与える資料
- ② 人間の弱さやもろさに向き合い、生きる喜びや勇気を与える資料
- ③ 命の大切さや、人間としてよりよく生きることを深く考える資料
- ④ 体験活動や日常生活を振り返り、道徳的価値の意義や大切さを考える資料
- ⑤ 地域や郷土に素材を求めた資料
- ⑥ 今日的な課題や生徒たちの悩み、学級や学校生活における具体的事柄や葛藤な課どの題について深く考える資料

生徒の「心に響く」とは、

- ・ 心に届き、心を揺さぶり、心に訴えるものがある。
- ・ 知・情・意がはたらき、自覚に至る。
- ・ 価値意識と本能が葛藤する。
- ・ 今まで気付かなかったことに気付く、新しい発見がある。

こうした心の状況をつくりだす、心に響く資料を選定・開発しましょう。



ウ 発問と発言の受け止めの工夫

教師の発問や、生徒の発言の確かな受容は、生徒の思考や話し合い活動を深め、主体的な学習の決め手になります。次のような点に注意し、深まりのある道徳の時間にしましょう。

- ① 発言の自由度があり、答えが一つでない発問
- ② 生徒の疑問やこだわりをクラス全体へ投げかけ、広げる発問
- ③ 中心発問、基本発問、補助発問など発問構成を明確にする。
- ④ 単純な応答には、「なぜ?」「どうして?」と掘り下げ、再焦点化を促す。
- ⑤ 発言の傾聴とうなづき、復唱や賞揚など共感的な生徒理解で自己肯定感をもちさせる。
- ⑥ 発言の整理や補説、焦点化により、考えを明確にし深めていく。
- ⑦ 考えの違いや自分の立場を色や形で示したり、名前を書いたマグネットで類別したり、気持ちの変化をグラフ的に表示する。
- ⑧ 隣の人や周りの人、グループなど場面による集団の選択
- ⑨ 討議的、対面的な形態、パネルディスカッションなど話し合いの場の工夫



エ 体験を生かした授業の工夫

体験を生かした道徳の授業とは、自分の体験を想起しながらねらいとする道徳的価値を自分とのかかわりでとらえ、自分自身と結びつけながら考えを深めることができる授業のことです。体験を生かした授業のポイントとしては、次の4点が考えられます。

- ① 生徒の体験を補助資料として活用する。
 - ・ 学校行事の生徒の感想文や、保護者、地域の方々から寄せられた感想文
- ② 各教科、特別活動、総合的な学習の時間と響き合う授業を工夫する。
 - ・ 生徒の学んでいる内容と道徳の時間の主題との関連を図る。
 - ・ 生徒の学ぶ姿勢やそのときの気持ちなどと道徳の時間との関連を図る。
 - ・ 集団活動での体験を道徳の時間とかわらせる。
 - ・ 進路学習の一環としての職場体験学習と「働くことの尊さや意義」の道徳的価値との関連を図る。
- ③ 体験の資料化
 - ・ 高齢者施設へ訪問ボランティアを行った際の出来事や部活動や学級での出来事等をもとに資料化する。
 - ・ 体験活動後の生徒作文や活動中の生徒の様子、生徒の会話などを素材として創作する。
- ④ 実感を高める体験的な活動を授業の流れの一部に取り込む。
 - ・ 道徳の授業の一部に役割演技や動作化、寸劇など表現活動を取り入れる。
 - ・ アイマスク体験や車いす体験などの模擬体験により、中心資料を理解を深める。



オ 協働的な指導

道徳の時間の指導は、学級担任が行うことが基本ですが、道徳的価値の自覚をより深めることができるように、道徳の時間の指導体制を充実していくことが大切です。

ティーム・ティーチング等による協働的な指導を進める方法やポイントとしては、次のようなことが考えられます。

- ① 校長や教頭が参加する方法
 - ・ 経験豊かな指導性を授業に反映させ、校長・教頭の人間性に触れる。
- ② 他の学級担任や専科教員、養護教諭等との協働的な指導
 - ・ 個に応じた指導、教師の個性や専門性を生かした指導の充実
- ③ 地域の講師や保護者等が参加する授業
 - ・ 専門性の高い資料的価値をもった講師の多様な生き方に触れる授業
 - ・ 保護者や地域の人々の声や手紙など生かす授業

ティーム・ティーチングによる指導のポイント

- 事前に指導者と協力して学習指導案を作成する。
- あらかじめ授業展開におけるそれぞれの役割分担を明確にしておく。
- それぞれの指導者の特性を生かす。
- 授業後の評価を共同で行う。



カ 家庭・地域との連携

子どもは、家庭や地域社会で周囲の愛情に見守られて育ちます。そのため、学校、家庭、地域社会がそれぞれの特色を生かしながら役割を果たし、同じ気持ちで道徳教育を進めていくことが大切です。

- ① 学校としてのビジョンを示し、共通理解を図りましょう。
 - ・ 家庭や地域社会の特色や願いを意識した学校としてのビジョンを示す。
 - ・ 全教職員が共通理解し、学校からの通信や保護者会、地域の人との懇談会で明確に伝えていく。
 - ・ ビジョンは、分かりやすく、親しみやすく、共感できる内容のものにする。
- ② 道徳の時間の公開と参加・協力の工夫をしよう。
 - ・ 道徳の時間を保護者や地域、小学校や高等学校などに積極的に公開する。
 - ・ ねらいに迫るための生きた資料の提供者として参加する。
 - ・ 授業後の懇談会を、授業の意義や生徒の道徳性について語るよい機会とする。
- ③ 通信類を工夫し、家庭、地域社会と心のネットワークをつくろう。
 - ・ 学校通信や学年、学級通信、道徳便りなどで学校での様子を連絡する。
 - ・ 読者からの感想や地域社会からのメッセージなど双方からの働きかけをする。
 - ・ 「心のノート」を活用し、親子が共通の話題で話合いを深めたり、保護者や地域の人々から意見を求め記入していただく。
 - ・ 学校のホームページで情報提供や情報交換を行う。

(2) 道徳教育の基盤づくり

学校全体で取り組む道徳教育を充実させよう。

生徒を取り巻く環境を、道徳性を育てる場としてふさわしいものにしよう。

物的環境

掲示物の工夫

- ・ 学校や学級の目標
- ・ 生徒一人一人の目標や作品
- ・ 授業の成果物など
- ・ 道徳の指導内容に関する資料



環境美化

- ・ 日常的な整理整頓
- ・ 教師と生徒が共に行う清掃活動



読書環境の充実

- ・ 学校図書館
- ・ 学級文庫の整備



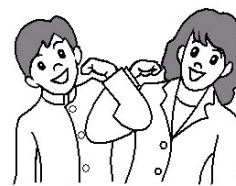
言語環境への配慮

- ・ 生徒の言葉遣い
- ・ 教師の言葉遣い
- ・ 黒板の文字や校内放送など

人的環境

温かな人間関係づくり

- ・ 教師と生徒、生徒同士の信頼関係



生徒



学級づくり

- ・ 自己有用感が感じられる居場所づくり
- ・ 本音が出し合える学級
- ・ 認め合い、高まり合おうとする集団
- ・ 喜怒哀楽を全体で共有することのできる学級



教職員相互の人間関係

- ・ ねらいの共通理解
- ・ 互いの人格の尊重と、高め合う温かい人間関係
- ・ 協働やピアサポート体制

「環境は人をつくる」

(3) 具体的な展開例

ア 副読本を用いた基本的な展開例

(ア) 主題 3-(2) 命を見つめ、支え、共に生きる

(イ) 本時のねらい

かけがえのない自他の生命の大切さに気付き、生命を尊重し、共に支え合って生き、生かされていることに感謝の念をもつ。

(ウ) 資料名 「決断！骨髄バンク移植第一号」 出典：「明日をひらく」（東京書籍）

(エ) あらすじ

名古屋市の病院に入院していた白血病登録患者の橋本和浩さんの様態が急変し危機的状況にあるという知らせが「骨髄バンク」を設立したボランティアの会に届き、岐阜県の田中重勝さんが一致していることが分かった。田中さんは、すかさず提供を承諾し、節制した生活に努めていたが、検査が始まり、移植手術が近づくにつれて不安や迷いで心が揺れていた。電話で断ろうと思ったとき、二人の息子との約束を思い出し、決心を固めた。

日本で初めての骨髄バンク登録者による移植手術は成功し、その後、骨髄バンクの運動は全国に広まった。お互いのことを知らされていない二人に、7年後「日本骨髄バンク」の全国集会で感動の出会いが・・・。

(オ) 展開の概要

道徳の時間では、生徒一人一人が道徳的価値について自覚を深めることが大切です。

道徳的価値の自覚には次の点を押さえておく必要があります。

- ・ 道徳的価値についての理解を深めること
- ・ 自分とのかかわりで道徳的価値をとらえること
- ・ 道徳的価値を自分なりに発展させていくことへの思いや課題を培うこと

そのためには、指導過程の「導入」「展開」「終末」の各段階での子どもたちの意識を大切に考えることが必要です。

学 習 活 動	主な発問と予想される反応	指導・援助の留意点
1 本時の学習を想起する。	○ 「骨髄バンク」は、どのような願いにより設立されたのかを思い出してみよう。 ・ 一人でも多くの人を助けたいという願い。	・ 短時間でまとめ、何について考え、話し合うか方向付けをする。
2 資料を読んで話し合う。 (1) 資料を読む。		・ 教師が読み聞かせる。
(2) 自分の骨髄を提供する決意をした「田中さん」の気持ちを考える。	○ 「あなたの血液が適合しました。」との連絡を受けたとき、「田中さん」はどんな気持ちで「提供します」と答えたのだろうか。 ・ 人の役に立てるときがきた。 ・ 患者さんを助けたい。	・ 人の役に立てることを心から喜ぶ「田中さん」の誠実な人柄に気付かせる。

< 導 入 >

その時間に深めていく主題について課題意識を高める活動です。

< 展 開 前 段 >

資料を通して道徳的価値を理解し、友だちの意見を聞きながら、自分の考えを深めていきます。

(3) 移植のための検査が始まってからの「田中さん」の気持ちを考える。

中心発問(◎)は、しっかり時間をかけて話し合しましょう。

3 自分の生活を振り返り、自分の考えを深める。

4 父母からのメッセージを聞く。

価値の押しつけにならないように注意しましょう。余韻を残してまとめましょう。

- 検査が始まり、「田中さん」の決意に迷いが生じたのは、どんな気持ちからなのだろうか。
 - ・太い針を身体に十回も刺すのは怖い。
 - ・辛い思いをして提供するのに、なぜ相手のことを何も教えてもらえないのか。

- ◎ 自分の手のひらを見つめているとき「田中さん」は、どんな気持ちでいたのだろうか。
 - ・大事な命を自分の手で握りつぶすことはできない。
 - ・患者さんの命も、自分の子どもの命と同じくらい大切だ。
 - ・勇気を出して、人の役に立とう。

- 人に大切にされたり、助けられたりして、感謝の思いを実感した経験を話し合おう。
 - ・自分が病気をしたときに、必死で看病してくれた家族に心から感謝している。
 - ・今の自分がいるのは、部活動で悩んでいるときに、本気で心配してくれた友だちがいてくれたからだ。



- ・場面絵の掲示。
- ・補助発問により、一度は決意したものの心が揺れる「田中さん」の気持ちをつかませる。

- ・小グループでの話し合い活動を通して、互いの意見を交流し合う。
- ・「田中さん」の葛藤と決断の背景にあるものをしっかりととらえさせる。

- ・自分の日常生活に目を向け、自他の生命を尊重し、これからの自分の前向きな生き方につながるように助言する。

生徒の意識の変化や、進歩したことを見逃さないで温かい言葉で伝えましょう。

- ・父母からの手紙を教師が読み聞かせる。(BGM)

- ・心のノートP66、67を読んで書き込む。

心のノートを有効に活用しましょう。

場面絵や写真、映像や実物などを併用し、内容の理解が深まるよう支援しましょう。

特定の生徒の発言に偏らないよう、隣同士や3～5人の小グループでの話し合いも適宜取り入れましょう。

<展開後段>
展開前段でとらえた道徳的価値を自分とのかかわりで見直す(自覚する)ための活動です。

<終末>
道徳的価値に対する思いや考えをまとめたり、温めたりして、今後の発展につなぐ活動です。

評価の観点

- 生徒が、自分の生き方の問題として認識し、意欲をもって学習に参加していたか。
- 資料の内容は、生徒の実態やねらいに応じた適切なものであったか。

(カ) 評価のポイント

事後指導に生かすためにも、生徒理解を深め、一人一人がよりよい生き方を求めるようになる評価を工夫しましょう。

- ・心の軌跡をノートやファイルなどに記し、自らの成長を実感する機会をつくる。
- ・小さなことでもよい変化を見逃さず、肯定的なメッセージを送る。
- ・生徒同士の相互評価や保護者、地域の人々からの評価を積極的に生かし、よりよく生きようとする意欲を育てる。

イ 地域人材を活用した指導事例

(ア) 主題 1ー(1) ものを大切に

(イ) 本時のねらい

ものの向こう側にある様々な思いに気づき、それらを大切にしようとする心情を培う。

(ウ) 資料名 『ランドセル』 出典：「中学生の道徳」(暁図書出版)

(エ) あらすじ

我が家の近所に、30代の青年が経営する「古くなったものを直す」店があり、彼は本業の他に暇をみては革で小物を作っていた。彼が、古いランドセルを全くそれと同じ型の手に乗るようなミニランドセルに作り変えると、それを見た中学生の母親が、これなら小学生の思い出がそのままとっておけると注文するようになり、たちまち評判となって新聞やテレビなどで全国に広まった。

彼のもとに送られてくるランドセルは、入学を前にして交通事故で死んだ子どもの真新しいものや、卒業を待たずに病死した息子のもの、家が貧しくて姉妹で使い二人の名前の入ったものなど、一つ一つに思い出が詰まっていて、ドラマが語られていた……。

(オ) 地域の講師や保護者等が参加する授業の工夫

何をねらいとし、どの時間にどのような役割で協力を得るのか等を事前に明確にし、年間指導計画との関連を踏まえて、次のような形での参加・協力の機会を得るようにしていくことが考えられます。

- ① ねらいに迫るための生きた資料の提供者として
- ② 授業の中で、道徳的価値の自覚を深めるための支援者として
- ③ 生徒の発言を受けとめ、教師と共に授業を進めるものとして
- ④ 生徒と同じように、生き方を共に考える一人の参加者として

具体的な授業では、

- 様々な職業に従事する人や特技をもった人、地域活動の指導者、伝統文化の継承者など専門性の高い資料的価値をもった講師の、多様な生き方に触れる。
- 保護者や地域の人々の思いや願いなど、声や手紙のメッセージを授業で生かす。などの取り入れ方が考えられます。

(カ) 展開例

	学 習 活 動	指導・援助の主な留意点
導 入	1 ゲストティーチャーの話A を聞く。	<ul style="list-style-type: none">・ 導入では、物がなくて大変苦労された時代の話をしていただき、主題について興味・関心を持たせ、課題意識を高める。・ 打ち合わせの時に予め時間や内容について確認し、長くなりすぎないように注意する。

展 開	2 資料「ランドセル」 を読んで話し合う。	
	(1) ランドセルに込められた 思いの深さと向き合う 青年について考える。	○ 青年がランドセルづくりを「こわい」と言っている 場面に絞り、注文主の深い愛着や思い出があること、 青年が誠実に注文主の思いに応えようとしていること、 その態度に感謝の気持ちが寄せられていることに気付 かせる。
	(2) 青年がミニランドセル づくりにかける気持ちに ついて考える。	○ ランドセルづくりに悩みながらも一生作り続けよう としている青年の気持ちについて、青年になったつも りで深く考えさせる。
終 末	3 物を大切にするという ことは、私たちの生活に どのような意味をもつ か考える。	○ 物に愛着を持ち大切にすることは、周囲の人やに物 も感謝する心をもつことができ、自分自身も大切にす ることができることに気付かせる。
	4 ゲストティーチャーの 話B を聞く。	<div style="border: 2px dashed black; padding: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 終末では、ゲストティーチャーから具体物を示しな がら、その物に込められた思いや生徒に対する願いな どについて語っていただき、生徒の物に対する着や愛 感謝の気持ち、物を大切にして生きていこうと する心情を高めて終わる。 ・ ゲストティーチャーの語りの時間をきちんと確保す ると共に、終末の語りで押さえていただきたいねらい や道徳的価値を明確に伝えておく。 </div>
	5 今日の感想を書き、そ れを発表して、ゲスト ティーチャーへ伝える。	○ 言葉や文字にして表現することで、これからの生き 方を見つめると共に、友達の発表を聞くことで道徳的 な実践力の向上につなげる。

(キ) まとめ

地域の人々の参加・協力を得ることは、授業に変化をもたせ生徒の興味・関心を高めるとともに、生き方について様々な角度から深く考えさせることができます。また、様々な分野の第一線で活躍する人々の実体験に基づく話は、学校にない専門的な知識や知恵として生徒の興味・関心を高めたり、生きた資料として現実感や切実感を醸し出し、学習効果を高めることができます。さらに、地域に住む人々が、同じ地域に育つ生徒に対して語る言葉は、生徒の心に深く響き、生き方のモデルとして生徒の心をとらえ深い感銘を与えるものとなります。

このように、地域の人々と教師や生徒が共に人間としての生き方について語り合うことを通して、互いの思いや願いを理解し合う機会となり、地域の人々にとっても生徒を「地域の生徒」として見守り育てようとするなど、連携による教育の一層の充実が期待できます。

エ 葛藤教材を用いた展開例

(ア) 主題 1-(5)「向上心、個性の尊重」 4-(6)「家族に対する敬愛の念」

(イ) 本時のねらい

自己を見つめ、自己の向上を図り、充実した生き方を追求しつつも、社会生活の基盤である家族を敬愛し、家族の絆を大切に思う心を育てる。

(ウ) 資料名 「大会を前にして」 出典：「道するべ1」（正進社）

(エ) あらすじ

主人公「真耶」が主将を務める剣道部は、毎年、強豪校である青秀と全国大会出場をかけ、西東京大会で争っていた。そして、今年も打倒青秀を合言葉に仲間と共に厳しい練習に耐え、決勝戦まで駒を進めることができた。もちろん、決勝戦の相手は青秀である。

ところが、その決勝戦前日の夜、九州で入院している祖母の容態が急に悪化し、医者診断では、もって翌日の午前中の命、とのことである。祖母は入院前は真耶と同居しており、いじめられていた真耶に寄り添い、優しく励ましてくれるなど、真耶のことをとても大切にしてくれていた。真耶は大会に出場すべきか、それとも、九州に行くべきか。

(オ) 葛藤教材を用いる効果と留意点

① 話し合いの活性化が図られる。

葛藤教材は、身近に起こりそうな出来事を題材とし、内包する二つの価値のどちらかを主体的に選択するので、生徒にとって取り組みやすい教材です。


また、本音を引き出しやすいので、生徒が活発に意見を出し合うことで話し合うことの意味に気付いたり、コミュニケーション能力も向上を図ったりすることができま

② 教師は、生徒の反応を予想しておく必要がある。

葛藤教材を用いる場合は、様々な反応を予想し、より望ましい生徒の反応を整理しておくことが大切です。

	大会に出場すべきと判断する理由	九州に行くべきと判断する理由
予想される	<ul style="list-style-type: none"> 一緒に頑張ってきた仲間や応援してくれる周囲の人たちの期待に応えることは大切だ。 おばあさんも私のことを理解し、きっと喜んでくれるはずだ。 	<ul style="list-style-type: none"> 命にかかわることなので仲間も理解してくれるはず。 努力してきたことが結果より尊いことだ。 もう二度と会えないかもしれないので、行くべきだ。
生徒の反応	<ul style="list-style-type: none"> 大会に優勝するためにやってきた今までの練習が無駄になり、もったいない。 九州には後からでも行ける。全国大会に進むチャンスは今しかない。 	<ul style="list-style-type: none"> 大会に出ても絶対勝てるとは限らず、おばあさんにありがとうを言わないと後悔する。 大会は高校でもあるけど、おばあさんに会えるときは、この先、二度とないから。
(例)	<ul style="list-style-type: none"> 団体戦に出場しないと、チームのみんなから非難される。 	<ul style="list-style-type: none"> おばあさんに会いに行かないと、家族や親戚の人から非難される。

(カ) 展開例

	学 習 活 動	指 導 ・ 援 助 の 主 な 留 意 点
導 入	●第1次 1 スポーツの場面を見る。	○ オリンピック出場を決めたサッカー日本代表の試合のビデオを視聴し、表情やインタビューから大会への思いを想起する。
展 開	2 資料を読んで、次の点を話し合い、状況把握をする。 (1) 昨年、青秀に敗れたときの真耶の気持ち (2) 決勝を控えての真耶の気持ち (3) 祖母の危篤を聞いたときの真耶の気持ち	○ ワークシート1 ・登場人物や背景、葛藤の内容や道徳的価値などの確実な共通理解に有効です。 ・書くことによって自信を持って発表することができるとともに、自分と向き合い、心を整理できます。  真耶の気持ちをワークシートに記入しています
終 末	3 真耶は大会に参加すべきか、祖母の見舞いに行くべきか考える。	○ 真耶の立場に立って第1次の判断を行わせ、その理由付けをワークシートに記入し発表させる。
導 入	●第2次 1 第1次の授業を振り返る。	○ ワークシート1を返却し、前次の自分の判断・理由付けを確認する。
展 開	2 判断ごとのグループで、理由付けについての意見交換と反対の立場に対する質問をまとめる。 3 お互いに質問し、自分の意見を明確にする。 4 双方の行動の結果を予測し、なぜ強い意志や家族の絆が大切なのかを発表し合う。	○ 話し合いのポイント ・どちらの立場が正しいというのではなく、自分の率直な考えを自由に発表してよいことを理解させておく。 ・話し合いは、勝ち負けを決めるためにするのはないことを理解させ、相反する立場の人の意見を尊重し合い、学び合うように支援する。 ・なぜそう考えるかを必ず発表し、しっかり聴き合うことの大切さを理解させる。 ・教師は生徒の発言の整理や焦点化を行い、深まりのある練り上げができるようにする。
終 末	5 最終の判断・理由付けを行う。	○ ワークシート2に最終の判断・理由付けを記入させ、強い意志や家族の絆の大切さを生徒の意見をもとにまとめ、オープンエンドで終わる。

(キ) ワークシート1

	<input type="radio"/> 大会に出場 <input type="radio"/> 九州に行く	【理由】					
			<p>四 第一次判断をしよう。真耶は大会に出場すべきでしょうか、それとも九州に行くべきでしょうか。また、それはなぜですか。</p>	<p>三 祖母の病状を聞いたとき、真耶はどんなことを考えたのだろうか。</p>	<p>二 青秀との決勝戦を控えて、真耶はどんな気持ちだったのだろうか。</p>	<p>一 昨年の大会で青秀に敗れたとき、真耶はどんな思いだったか。</p>	大会を前にして①(組)番名前()

ワークシート 2

	一 大会に出場すべきだと考える理由	二 九州に行くべきだと考える理由	三 自分と違う判断をした人に対する質問	四 もし、真耶が大会に出場しなかったら、どんな結果になるだろうか。	五 もし、大会に出場して、祖母の臨終に間に合わなかったら、どうなるだろうか。	六 第二次判断	() 大会に出場 () 九州に行く	【理由】	
--	----------------------	---------------------	------------------------	--------------------------------------	---	------------	------------------------	------	--

(ク) 第2次の話合いの様子

生徒・教師の発言	教師の分析
S1 : 九州に行かずにおばあさんが死んでしまったら、一生後悔すると思います。	九州に行く判断した根拠。
S2 : 大会に出なかったら、今までの練習がすべて無駄になるし、後で後悔すると思います。	大会に出場すると判断した根拠。
S3 : (S2に対して)おばあさんに会いたい気持ちはないのですか。	大会に出場するという判断を受け入れられない生徒の発言。
S2 : もちろんおばあさんには会いたいけど、今まで苦労して練習してきたのに決勝戦を休むなんて…。	どう判断してよいか分からなくなり、葛藤している様子。
T : 九州に行っても、大会に出場しても、どちらにしても後悔しそうで、難しい問題ですね。それでは、 <u>おばあさんの気持ちはどうでしょうか。</u>	話合いを軌道修正し、焦点化を図る教師の発問。これをきっかけに、より道德性の高い発言が出されるようになった。
S4 : 真耶が大会に出場してくれる方が、おばあさんは喜ぶと思います。真耶が大会を休んで九州に来たと知ると、よけいに悲しむのではないのでしょうか。	真耶の気持ちだけでなく、祖母の気持ちも考えた意見。
S5 : 真耶が、大会を休んで九州へ行っても、共に剣道に打ち込んできた仲間なら、きっと分かってくれると思います。	真耶の気持ちだけでなく、仲間の気持ちも考えた意見。

(ケ) 話合いの場の工夫

話合いは、生徒相互の考えを深める中心的な学習活動です。討議的な形態や対面的な形態、同じ意見ごとに集まる形態、意見の変化に応じて移動が可能な形態など、様々な形態の工夫が考えられます。

また、一人一人の考えや立場を明確にもてるようにするために、黒板に書かれた考えの類別の枠に生徒の名前を書いたマグネットシートを貼ったりする方法などの工夫も考えられます。

「共に生きる子ども育成プロジェクト」指導資料作成委員名簿

岡山市立伊島幼稚園	園長	守屋	操
瀬戸内市立国府幼稚園	教諭	平松	美由紀
奈義町立滝川つくし幼稚園	教諭	鷹取	好子
玉野市教育委員会	指導主事	藤原	明美
岡山市立鯉山小学校	校長	菅	京子
岡山市立高島小学校	教諭	深井	守
倉敷市立万寿東小学校	教諭	荻野	雄三
瀬戸内市立邑久中学校	校長	竹内	慎一
岡山市立光南台中学校	教諭	岡田	節子
備前市立伊里中学校	教諭	丸野	逸男
県総合教育センター	指導主事	川西	隆
岡山市立古都小学校	教頭	守田	暁美
和気町立佐伯小学校	教諭	青山	典子
津山市立河辺小学校	教諭	山本	輝美
倉敷市立福田中学校	校長	内田	隆志
岡山市立東山中学校	教諭	小野	大
美咲町立中央中学校	教諭	板倉	正志
県総合教育センター	指導主事	中島	勝巳

なお、岡山県教育庁指導課が編集に当たった。